

日商簿記 2 級

無料で学べる日商簿記 2 級

工業簿記

全 93 ページ
(内、各単元表紙 14 枚)



試験は通る事が大事じゃきに
質問はニコニコぜよ



弥生カレッジ CMC では月 1 回 (以上)、ニコニコ生放送を利用した独学者応援生放送 (無料質問会) 「そこまで質問されて委員会」を開催しています。学習や職業訓練に関する質問をコメントしてください。



弥生カレッジ CMC

無断転用・転載を禁じます

龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記1> 工業簿記の基礎

全6枚



弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

<工業簿記は数学が必要か？>

はい！といっても算数レベルです。

この2つの考えが理解できれば大丈夫です。

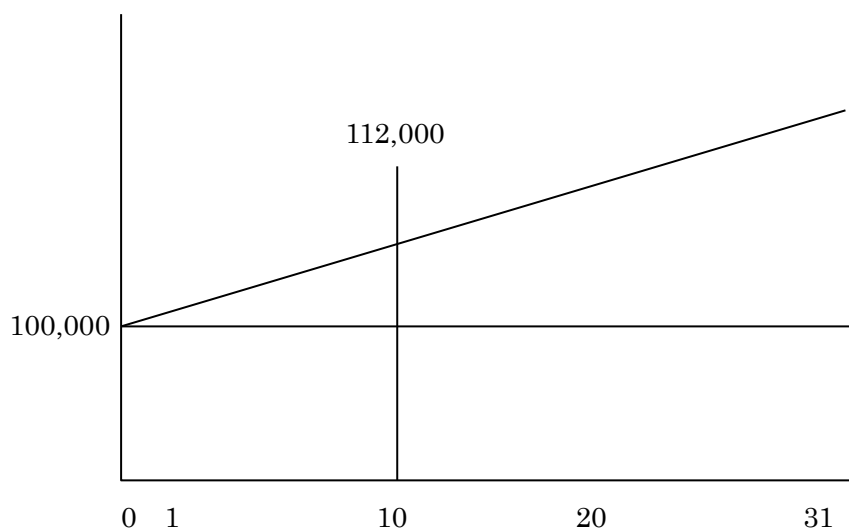
$$2X = 4 \rightarrow X = 2$$

これは大丈夫！だったらCVP分析は大丈夫です。

$$y = ax + b$$

えっ??これはダメです

そんな事はありません。今から説明します。



家賃 100,000 円（固定費）、外食費@1,000 円の予算をあらわすグラフです
今月は 10 日外食しました、家賃とあわせた予算はいくらでしょうか？

予算 $y = 1,000 \times 10$ （日） + 100,000 = 110,000 ですね

この時に領収書を全部計算すると、112,000 円ありました

思ったより 2,000 円使いました。これで標準原価計算の差異分析は大丈夫です。

実はこのグラフと、この考え方が難解と言われているのです。そんな事はないぜよ！！ですね。

では、Let's 工業簿記！！ぜよ

まずはお持ちの各テキストの「工業簿記の基礎」を読んでもください。
覚える必要はありません「ふーん」という感じで充分です。

どのテキストでも下記の内容が記されています。

①商業簿記との違い

「商品を仕入れて売る」と「材料を加工して製品を作り売る」

②原価とは？

製造原価＋販売費＋一般管理費＝総原価

営業外費用＋特別損失＝非原価

③原価の分類方法

工場でかかった「ありとあらゆる経費」を分類する

イ.材料費・労務費・経費

ロ.直接費・間接費

④会計期間と原価計算期間

原価計算は意思決定に強くかかわります

1年で計算ではライバルに勝てません

また、勘定連絡図というものも掲載されています

スッキリ3版：P 1 2

サクッと4版：P 1 3

教科書：P 1 3

コピーして部屋にはっておきましょう

では、じっくり見ていきましょう

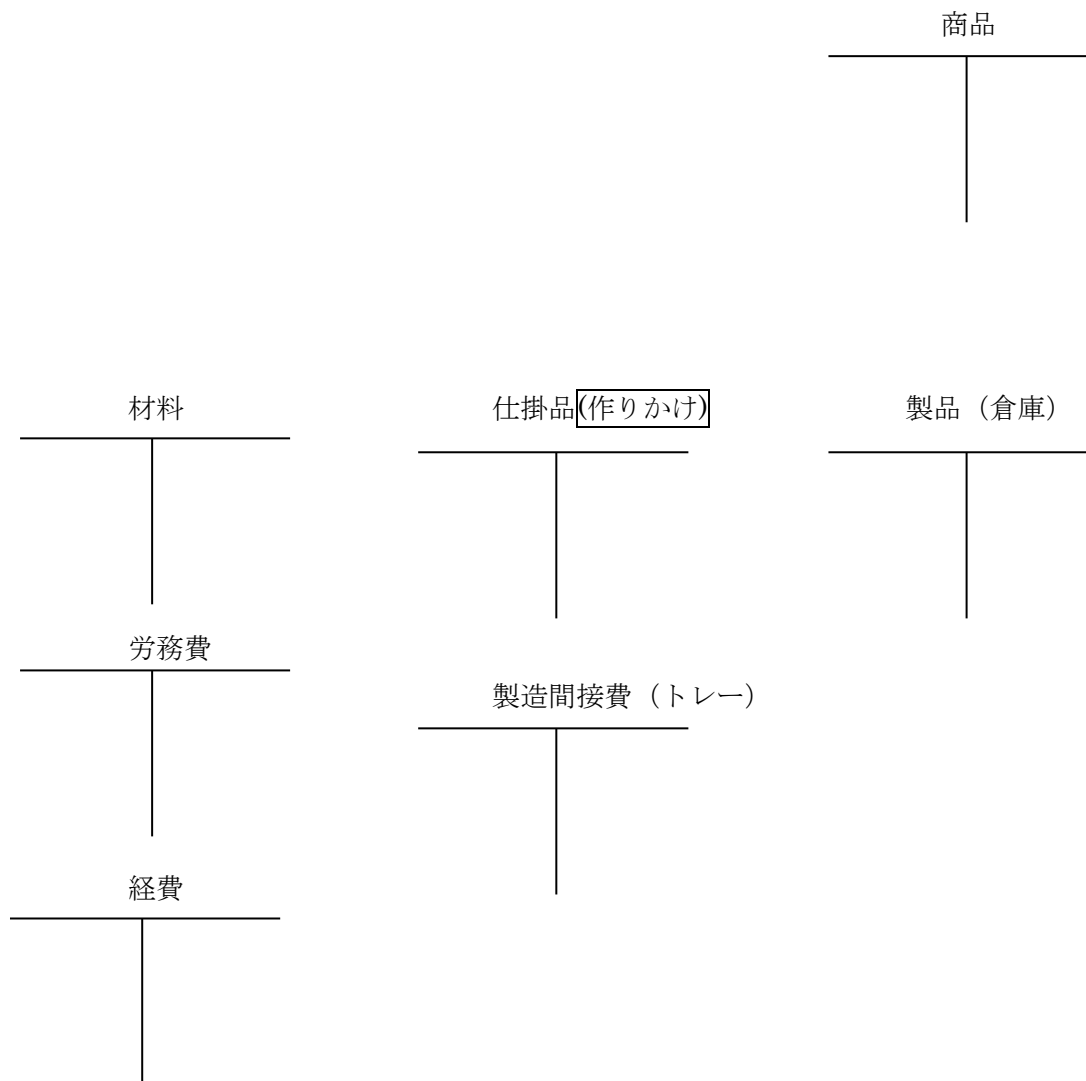
<商業簿記との違い>

商業簿記は商品勘定でP/Lを作る (100円で仕入れて200円で売る)

工業簿記は製品勘定でP/Lを作る

さらに、仕掛品勘定でC/Rを作る (20円で仕入れた材料に工場加工を加えて200円で売る)
(原価を自分で計算しないとイケない)

どういう意味?



もう少し詳しく見てみましょう。

この流れの事を**勘定連絡図(元帳)**と言います。

左から右へ、材料が製品になっている流れでイメージして下さい

原価計算ですから、書類が左から右に流れていきます。

まず第一段階は工場がかかった「ありとあらゆる経費を」ヒト・モノ・それ以外に分けます。

そして、それが「ある製品」に直接紐づいているかどうかで、仕掛品・製造間接費(共通)のBOXに振りわけます。

そして、完成した製品は製品倉庫に入ります。売れば売上原価。これは商業簿記と同じ仕組みです。

では、先のページに、下記の仕訳を記していきましょう

材料を 1,000 円で仕入れた
材料 1,000 / 買掛金 1,000

A 製品のために 400 円分使用した
仕掛品 400 / 材料 400

B 製品のために 200 円使用した
仕掛品 200 / 材料 200

A・B 共通で 100 円使用した
間接費 100 / 材料 100

直接工に 1,000 円の給料を払った
労務費 1,000 / 現金 1,000



上記の内訳は次の通り：A 製品の作業 600 円分 B 製品の作業 400 円分
仕掛品 600 / 労務費 600
仕掛品 400 / 労務費 400

事務員に 500 円の給料を払った
労務費 500 / 現金 500
間接費 500 / 労務費 500

A 製品の特殊加工の為に外注費を 1,000 円支払った
外注費 1,000 / 現金 1,000
仕掛品 1,000 / 外注費 1,000

間接費の合計を、半分ずつ A と B に振り分けた
仕掛品 300 / 間接費 300
仕掛品 300 / 間接費 300

製品 A が完成した
製品 2,300 / 仕掛品 2,300

	製品 A	製品 B	合計
直接材料費	400	200	600
直接労務費	600	400	1,000
直接経費	1,000		
製造間接費	300	300	600
合計	2,300	900	3,200
備考	完成	製造中	

ちょっと一息

●人生の転機

私の人生の最も大きな転機は、たぶん小学校4年の3学期。
神戸市に生まれ育ち、勉強はできるが、運動神経最悪（だから交通事故に何度も遭遇する）。典型的ないじめの対象。

「昔のいじめはカラッとしていた。」という人がいるが「冗談ではない」といいたい。

先生からも含めて、「笑いものにされている」感でいっぱいだった。
運動会では決まってお腹が痛くなる。

こんな私にめぐってきたチャンス。父親の独立による大阪への転校。
転校初日、子供心に「今回は絶対にいじめられたくない!」と決意。

神戸出身の方はご存じだと思いますが、大阪弁とは微妙にイントネーションが違う。私の「何しよう」に、隣に座った子から「何やそれ!」の嘲笑。勇気を振り絞って、「何がおかしいねん!」と強く言うと、その子が「こわー」といって退いた。そして放課後、その子が家に遊びに来た。

子供にとっては、こんな事で自信が付くものです。でも相変わらず運動神経はダメだった。小学校6年で50mを10秒という男女合わせて、ほぼ最下位だった。でも、足が遅い理由は体重が後ろにかかっていただけで判明。少し前のめりにすると、一気に8秒台。子供心に「やれば出来る。運動は楽しい」と思いました。その後は中学では柔道、高校では甲子園めざして野球にあけくれました。人間は気持ちで変わるものです。



講師横山の著書

「弥生検定攻略テキスト」

コラムより抜粋

龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記2> 材料費

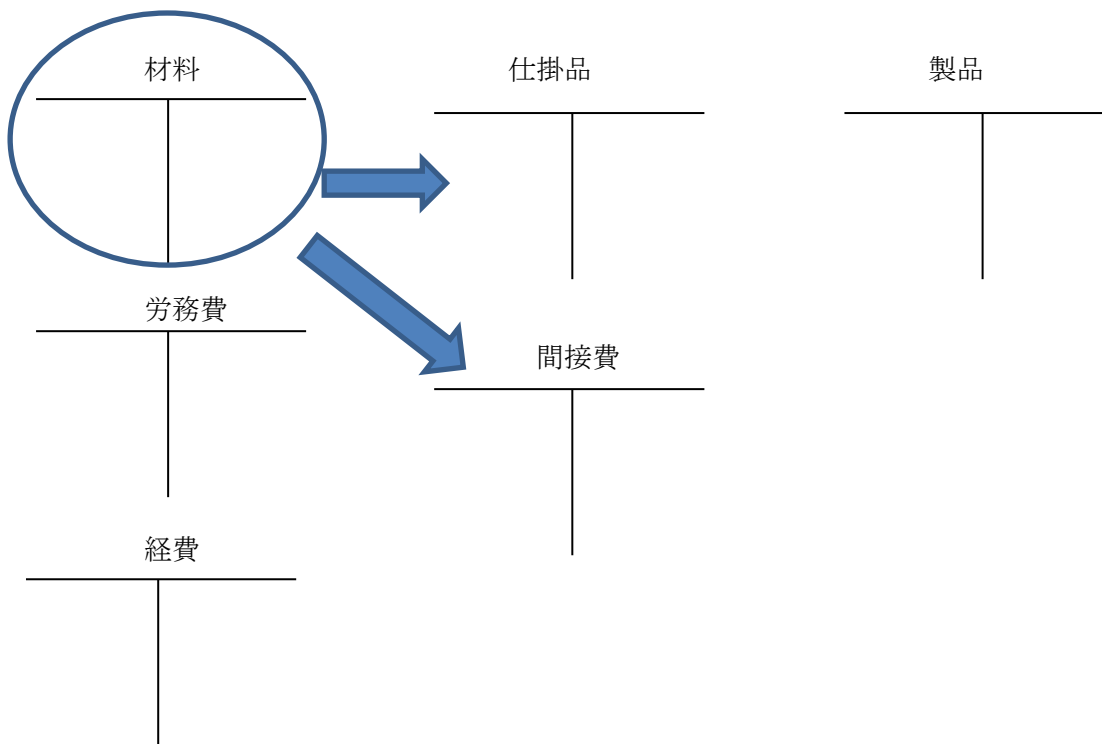
全8枚

※材料費1の動画で48分くらいで編集している部分があります



お持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）



今日は、材料費の内容をしっかりと見ていきましょう

原価計算のスタートは、まず「工場がかかった、ありとあらゆる経費を材料費・労務費・経費に分ける事」からはじまります。

近藤勇だ！これは
大事
覚えておくように



材料とは端的にいうと「手に持てる物」です。

原価計算基準ではこのように書かれています。

材料費とは、物品の消費によって生ずる原価をいい、おおむね次のように細分する。

- 1 素材費（又は原料費）
- 2 買入部品費
- 3 燃料費
- 4 工場消耗品費
- 5 消耗工具器具備品費

1級になると科目別の特徴を把握する必要も出てきますが、2級では「手に持てる物」のイメージで結構です。

1. 直接材料費と間接材料費

前回の講座でお話ししたように、かかった費用は製品に直接紐づけができるかどうかで直接費と間接費に分ける必要があります。

分け方は

主要材料（素材）と部品（買入部品）は、何に使ったかが明らかなので直接費

それ以外は間接費です

直接以外は間接。
簡単ね！

2. 購入について

商業簿記で学んだ内容を思い出してください。

有価証券購入時の証券会社への手数料は？

商品を仕入れた時の付随費用は？

クーラ（固定資産）購入した時の工事費（手数料）は？

すべて、該当科目の取得原価に含めました。

材料も同じです。



材料を 10,000 円で掛け購入。引取り費用 100 円は現金で支払った。

材料	10,100	／	買掛金	10,000
			現金	100

ただ、工場で材料を管理するには様々なコストがかかります。



引取費用

倉庫関連費用

出荷担当者の給与

実務では、「運送会社からの請求書がなかなか届かない」「倉庫管理担当者の日報が遅れ気味」等で都度の把握が難しいのが現状です。これでは原価計算業務に支障をきたし、営業部の意思決定も遅れ気味になります。

そこで考え出されたのが、この付随費用を前年実績などをベースに予定計算するという事です。

工業簿記の学習では「材料副費の予定配賦」といいます。言葉が難しいので「覚えようとする必要はありません」人間には「慣れる」という能力があります。

過去問の類題を作成しました。確認してみましょう。

第 136 回の第 4 問の(1)です

- (1) 当月、材料 50kg (単価 1,000 円/kg) を掛けで購入した。なお、購入にさいしては、材料副費として 4% を予定配賦している。

翻訳しましょう→今月材料を 50,000 えんで買いました。材料にかかる経費を 50,000 円×4%のせて計算しました。

これが予定でなければ

材料 52,000 / 買掛金 50,000

現金 2,000

です

でも、2,000 円は予定計算なんですね。この段階では現金は出ていません。

じゃあ、どういう風に仕訳しよう。学者さんは素晴らしいです。新しい科目をつくりました。

材料 52,000 / 買掛金 50,000

材料副費 2,000

でも学者さんの限界です。簿記の学習をはじめたばかりの人に、費用が右に出てきたら混乱します。なので私は、**材料仮勘定**と読んでいます。そんなイメージで考えて下さい。

このあと、実際の引取り費用や倉庫管理費用が判明します。3,000 円だったとします。

材料副費 3,000 / 現金 3,000 (実務では、この手前に別の仕訳が存在します)

差が 1,000 円出ますね。

これを

材料副費配賦差異 1,000 / 材料副費 1,000

として差額の金額を残すようにします。

後から差額の分析をしたいのですね。

差異に関しては、このあとの章で、もう少し詳しく説明します。

学者の考える事は、難しいがじゃでも、試験は気楽にいくぜよ！



3. 消費について

P 2 の勘定連絡図の  の流れを「消費」といいます。

直接材料の消費は仕掛品へ振り替えます。また間接材料の消費は製造間接費に振りかえます。

こんな感じです

購入した材料 (@100 円/kg) を製造指図書 # 101 に 10kg、何かわからないものに 1kg 使った。
製造指図書ってというのは、指図書するのだから「特定のもの=紐づけ可能なもの」です。

従って、仕掛品 1,000 / 材料 1,100
製造間接費 100

となります

でも、仕入れるタイミングが違くと単価もかわります。
この計算方法をみてみましょう

4. 先入先出法と平均法 (ここで、少し動画編集入っています)

これは日商簿記 3 級で学習済みですね。一応復習のために、動画で解説します。

月初在庫 10 個 1,000 円、当月仕入 90 個 9,900 円、当月末の在庫 20 個
この時の、在庫金額と消費金額は？

先入先出法の場合		総平均法の場合	
10		10	
1,000		1,000	
90		90	
9,900		9,900	
	20		20

ここで、棚卸計算法と継続記録法について少し述べておきましょう。

上の BOX では、逆算で消費量を求めました。 $10 + 90 - 20 = 80$ ですね

でも実際に 80 個使ったのか、75 個使って 5 個なくなった (盗難にあった) かわかりません。

もしこれが重要な材料だったら困ります。そこで 3 級で学んだような商品在高帳を作って帳簿在庫を管理し、月末に实地棚卸をする事で、なくなった分 (棚卸減耗) を管理し、なぜなくなったのかを分析する必要があります。これを継続記録法と呼びます。しっかり管理はできますが手間はかかります。

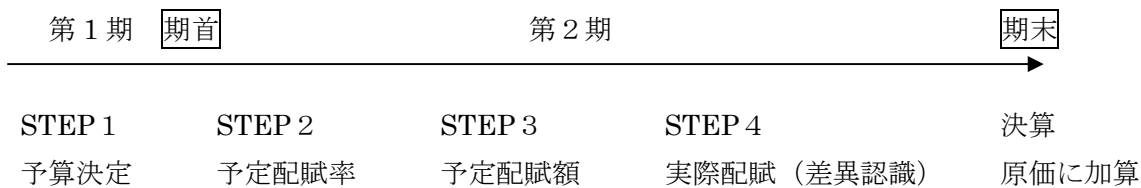
4. 予定配賦という考え方

日商簿記2級の第4問での出題頻度の高い予定配賦（90%くらい？）

ここは、しっかりと理解して下さい。

原価計算を迅速にしたい！単価を安定させたい！この2点が営業部からの要請です。
このイメージで、予定配賦の考え方を動画で説明します

手続きは以下の通りです。



STEP1（予算決定）

第1期の最後に当期の実績を参考に来季の予算組をします
例えば、Aという材料の予算は10,000Kgで1,000,000円とします

STEP2（予定配賦率の計算）

単価が出ます。@100円ですね。変な日本語ですが、これを予定配賦率といいます。

STEP3（予定配賦額）

ここが難しいようですが・・・
今月、製造#100に500kg、何につかったかわからないのが100kgでした。

仕掛品 50,000 / 材料 60,000・・・①
製造間接費 10,000

STEP4（実際配賦）

翌月10日総平均法で実際の額が判明しました。単価は120円でした。
もしも予算を決めていなかったら、この段階で下記の仕訳を行います

仕掛品 60,000 / 材料 72,000
製造間接費 12,000

でも、帳簿には①の金額で処理されています。材料は 72,000 円減っているのに 60,000 円しか減っていないという状態はまずいですね。また、原価の計算も 72,000 円かかったものを 60,000 円で計算して利益の計算をしたら投資家や銀行の信用を失います。そこで・・・

<材料消費価格差異 12,000/材料 12,000> という仕訳をします

差異勘定の名前は難しいので、とりあえず「差異」で覚えて下さい。簿記の試験では勘定科目は与えられますから覚える必要はありません。

また材料の価格が予定よりも高かったので会社にとっては不利ですね。

従ってこの差異の事を不利差異といいます。

差異勘定が借方に来るので、借方差異ともいいます。

ごろ合わせで覚えましょう。

「借りたら不利」「カリフリー」どっちでもOKです

予定よりも安かったら、有利差異・貸方差異といいます。このあたりはお持ちのテキストで再確認して下さい。

STEP5 (差異の期末会計処理)

言葉は難しいですが、予定のまま決算報告書を出したら「嘘の財務諸表」を報告する事になります
そこで、差額を売上原価に加算(減算)します

先の例で直接材料費だけで考えてみましょう

材料	仕掛品	製品	売上高 100,000
50,000	50,000 50,000	50,000 50,000	

この場合P/Lの利益は 50,000 です

でも、本当は 60,000 の原価で利益は 40,000 ですね

このままではウソになるので、投資家に報告する決算のタイミングで原価を 10,000 円加算します

各テキストにのっている

<売上原価 10,000/原価差異 10,000> というのはこういう意味なのです

<試験のポイント>

材料費は直接材料費と間接材料費、労務費も直接労務費と間接労務費、経費も直接経費と間接経費があります。

では棚卸減耗費は間接材料費でしょうか？実は間接経費に分類されます。

「なくなったものは手に持てない」なので材料費ではない。人件費でもないから間接経費になると覚えて下さい。

132回第4問の1. (1)(2)(3)にチャレンジしてみてください

CMCでは過去問演習の為に、「過去問ゼミ」を販売しています。

本試験対策にぜひご利用ください



●採用の決め手？

大学卒業後は日本信販（現在の三菱 UFJ ニコス）の子会社である近畿日本信販に入社した。入社後に総務部長から聞いた話です。

「横山君の履歴書は不採用側にあったんだよ。でも社長が、面白いからこいつも採っとけ」との事だったそうです。

面接の内容を再現します。

面接官「履歴書に（趣味）競馬・マーじゃんと書いてますが……何か学ばれましたか」

私「はい、競馬では14～5頭の馬から、最後に3頭に絞る必要があります。締切の時間と自分の財布を天秤にかけて、最後の1頭をどちらかに決めるという決断力を学びました」

面接官「では麻雀は」

私「はい、これは自分だけでなく、同じように勝ちを競っている相手3人との駆け引きを学びました。いくら自分が良い手でも、相手に上がられたらOUTです。自分の事だけでなく競争相手を常に意識する事を学びました」

今考えても、よくこんな言葉が出たもんだ、と感心します。でも担当の部長は「こいつは何考えてるんだ」と思っていたそうです。そして私の履歴書は不採用側に……

でも、ここでも強運。このおじさんは誰だろうと思っていた人が実は社長で、その人の「面白いから採ってこう」で復活したそうです。

真偽のほどは定かではありませんが、その年の忘年会で面接を担当した部長から直接聞いた話です。

まじめな話です。競馬もマーじゃんも一生懸命やりました。私の性格は、先の展望よりも「目の前の事」にのめりこむタイプ。

目の前の事を一生懸命できない人に、先の展望を読む力はつかないと思います。将来志向も大事ですが、「目の前の事」大事だと思いませんか。



講師横山の著書

「弥生検定攻略テキスト」

コラムより抜粋

龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記3> 労務費

全6枚



無料講座

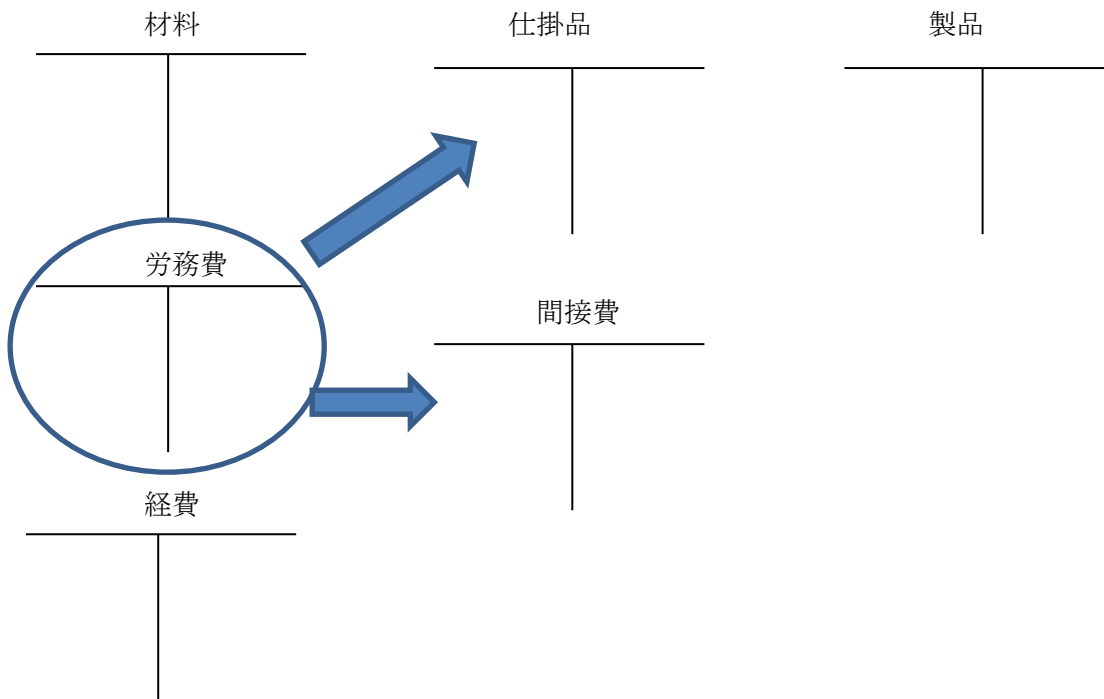
月に一回

質問も無料ぜよ



弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい



今日は、労務費の内容をしっかりと見ていきましょう

原価計算のスタートは、まず「工場でかかった、ありとあらゆる経費を材料費・労務費・経費に分ける事」からはじまります。



千葉佐那よ！
同じ事ばかり
いってると矢
を放ちます

近藤勇だ！これは大事
覚えておくように



労務費は「人にかかる費用の全般」です

原価計算基準ではこのように書かれています。

労務費とは、労務用役の消費によって生ずる原価をいい、おおむね次のように細分する。

- 1 賃金（基本給のほか割増賃金を含む。）
- 2 給料
- 3 雑給
- 4 従業員賞与手当
- 5 退職給与引当金繰入額
- 6 福利費（健康保険料負担金等）

佐那さん！大事な事
は何度も言わにやな
らんきに



<直接労務費>

直接賃金（必要ある場合には作業種類別に細分する。）

<間接労務費>

間接作業賃金、間接工賃金、手待賃金、休業賃金、給料、従業員賞与手当、退職給与引当金繰入額
福利費（健康保険料負担金等）

一二労務費計算

(一)直接賃金等であって、作業時間又は作業量の測定を行なう労務費は、実際の作業時間又は作業量に賃率を乗じて計算する。賃率は、実際の個別賃率又は、職場もしくは作業区分ごとの平均賃率による。平均賃率は、必要ある場合には、予定平均賃率をもって計算することができる。

直接賃金等は、必要ある場合には、当該原価計算期間の負担に属する要支払額をもって計算することができる。

(二)間接労務費であって、間接工賃金、給料、賞与手当等は、原則として当該原価計算期間の負担に属する要支払額をもって計算する。

※福利厚生費（福利施設負担額）は経費、法定福利費は労務費になります

1. 直接労務費と間接労務費

毎回同じ話ですが、かかった費用は製品に直接紐づけができるかどうかで直接費と間接費に分ける必要があります。

分け方は

直接工の直接作業時間だけが、「どの仕事にかかった時間かが」明らかなので直接費

それ以外は間接費です

直接以外は間接。
簡単ね！



もう少し詳しく見てみましょう

お持ちのテキストを参照して下さい

サク（4版）P48、スッキリ（3版）P42、教科書 P44 に原価計算期間と給料計算期間の図が出ています。

難しそうですが、締日単位ではなく、暦（1日から月末までの期間）で計算するという事です。

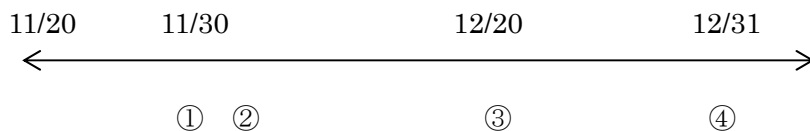
要は、当月支払った分に当月働いてもらったけれど未だ払っていない分（当月未払）を加算し、当月払った前月分を差し引いてください、という意味です。

当月（支払額）＋当月（未払額）－前月（未払額）と考えれば楽ですね

いいですか？ 当月分＝当月＋当月－前月です！！

しっかり理解したい方は下記の見越・繰延の考え方で確認して下さい

<例>



- 11/30 ①賃金 10,000／未払賃金 10,000
- 12/01 ②未払賃金 10,000／賃金 10,000
- 12/20 ③賃金 500,000／現金 450,000
預り金 50,000
- 12/31 ④賃金 20,000／未払賃金 20,000

賃金（12月）	
	前月未払 10,000
当月支払 500,000	
当月未払 20,000	

4. 予定配賦という考え方（材料費に続いて、しつこく行きます）

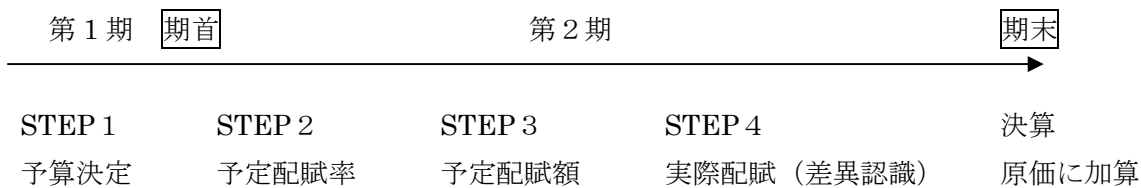
日商簿記2級の第4問での出題頻度の高い予定配賦（90%くらい？）

ここは、しっかりと理解して下さい。

原価計算を迅速にしたい！単価を安定させたい！この2点が営業部からの要請です。

このイメージで、予定配賦の考え方を動画で説明します

手続きは以下の通りです。



STEP1（予算決定）

第1期の最後に当期の実績を参考に来季の予算組をします

第1期の実績→直接工の年間勤務時間 2,000 時間 支払金額 4,000,000

STEP2（予定配賦率の計算）

単価が出ます。@2,000 円ですね。変な日本語ですが、これを予定配賦率といいます。

STEP3（予定配賦額）

ここが難しいようですが・・・

今月の日報を集計すると、直接作業に 110 時間、段取り時間に 10 時間、間接作業（掃除）に 30 時間
手待ちに 10 時間でした（段取りは直接に含み、手待ちは間接に含みます）

仕掛品 240,000 / 賃金 320,000 ①

製造間接費 80,000

STEP4（実際配賦）

翌月 10 日に平均単価（数人の作業）が算出されました。1,900 円です

もしも予算を決めていなかったら、この段階で下記の仕訳を行います

仕掛品 228,000 / 賃金 304,000

製造間接費 76,000

でも、帳簿には①の金額で処理されています。製品を製造する為にかかった人件費が304,000円なのに320,000円で報告してはまずいですね。投資家や銀行の信用を失います。税務署からもチェックされます。そこで・・

<貸金 16,000/貸率差異 16,000> という仕訳をします

差異勘定の名前は難しいので、とりあえず「差異」で覚えて下さい。簿記の試験では勘定科目は与えられますから覚える必要はありません。

また貸金の価格が予定よりも安かったので会社にとっては有利ですね。

従ってこの差異の事を有利差異といいます。

差異勘定が貸方に来るので、貸方差異ともいいます。

ごろ合わせで覚えましょう。

「借りたら不利」「カリフリー」どっちでもOKです

その逆で考えて下さい

「貸したら有利」「カシユーリ（これは意味不明）」

STEP5（差異の期末会計処理）

言葉は難しいですが、予定のまま決算報告書を出したら「嘘の財務諸表」を報告する事になります
そこで、差額を売上原価に加算（減算）します

先の例で直接労務費だけで考えてみましょう

貸金		仕掛品		製品	売上高 300,000
240,000		240,000	240,000	240,000	240,000

この場合P/Lの利益は60,000です

でも、本当は228,000の原価で利益は72,000ですね

このままではウソになるので、投資家や税務所に報告する決算のタイミングで原価を12,000円減算します

各テキストにのっている

<原価差異 12,000/売上原価 12,000> というのはこういう意味なのです

132回第4問の2. (1)(2)にチャレンジしてみてください

CMCでは過去問演習の為に、「過去問ゼミ」を販売しています。

本試験対策にぜひご利用ください

龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記4> 経費・製造間接費

全9枚



無料講座

月に一回

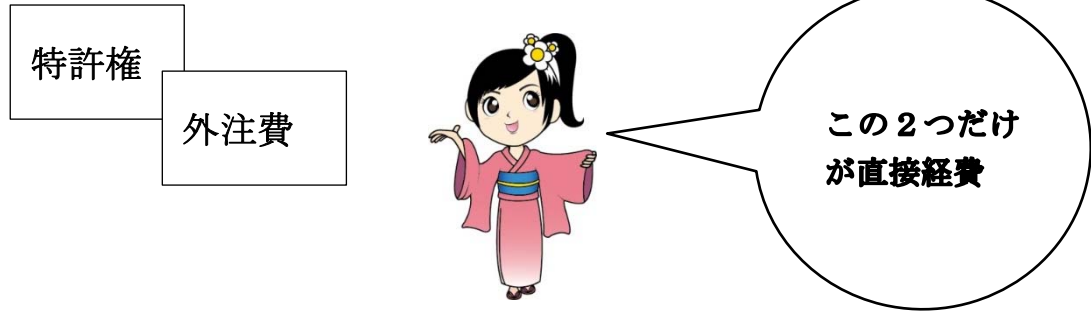
質問も無料ぜよ



弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

経費



材料費、労務費と学習してきた皆さん。イメージは湧いてきたでしょうか。

とにかく工場でかかったありとあらゆる費用（原価）は最終的には製品の原価に集計する必要があります。

残ったのは経費ですね。

試験では「材料費」「労務費」このあと学ぶ「製造間接費」が主役ですが、実務では経費は多いです。例えば、大きなものは家賃、小さなものはティッシュペーパー、勘定科目も色々あります。

でも、工業簿記では以下の点のみ注意してもらえれば大丈夫です。

直接経費は**外注加工費**と**特許権使用料**だけ

日商簿記2級では外注加工費と特許権使用料は直接経費、それ以外は間接経費となります。

ただ、問題文の指示があれば間接経費で処理する事もあります。

例えば「複数製品に共通の作業を行う機械の特許権使用料は10,000円である」という問題が出題されたら、間接経費で処理して下さい。問題の指示は絶対です。

経費の処理を見ておきましょう。処理方法は色々ありますが、ほとんどの場合は下記内容になります。詳しくはテキストをご確認下さい。

①外注費を10,000円、電気代を7,000円現金で払った。

外注費 10,000 / 現金 17,000

水道光熱費 7,000

②上記金額を製造原価に集計した。但し、当月分の水道メータ測定額は6,000円であった

仕掛品 10,000 / 外注費 10,000

製造間接費 6,000 / 水道間接費 6,000

メータ集計するような経費は測定経費といい、測定値を原価に集計します

測定値の計算まで要求される事はまずありませんが、考え方は後払いであれば労務費の〈当月＋当月－前月〉と同じ考え方です。

製造間接費の予定配賦を行う意味

材料費、労務費でも「迅速化&単位原価の安定」という話はしました

ただ試験では、材料費・労務費は実際価格で製造間接費のみ予定価格でという問題が頻出です

理由を考えてみましょう

①まずは、工場の中にある材料費・労務費以外にどのような経費があるかを考えてみて下さい



②次にその科目を固定費と変動費に分けて下さい

家賃も水道代も工場長のタクシー代も火災保険料も全部製造間接費

金額的に固定費が多い事に気づきます。後程説明しますが、金額の大きい固定費の存在が単位原価の安定を阻害するのです。「労務費も金額が大きいじゃないか」と考える人もいます。確かにそうです。ただ直接労務費は原価計算上は時間単価で計算しますから変動費に分類されます。間接工や工場事務員の給料は固定費として計算します。やはり製造間接費は固定の構成が圧倒的に多い事がわかります。

では、なぜ固定費が多いと単位原価の安定性を損ねるのか？

下の例をみて下さい

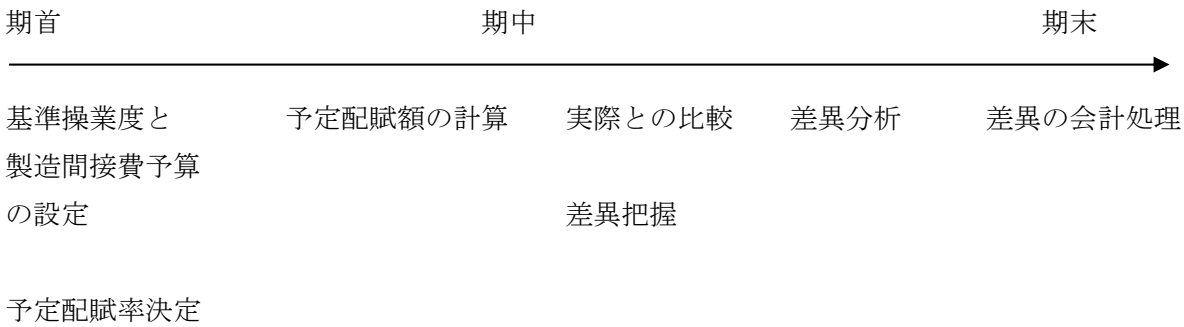
生産量	変動費単価	変動費	固定費	製造原価	単価
10	100	1,000	1,000,000	1,001,000	100,100
1,000	100	100,000	1,000,000	1,100,000	1,100
10,000	100	1,000,000	1,000,000	2,000,000	200

変動費の単価は常に一定ですね。これに対して固定費の単価は生産量（操業度）に影響されます。

操業度が変わる毎に単位原価が変わり、例えば 20%の利益をのせて販売したらどうなるでしょう。取引先から信用されなくなります。従って、製造間接費は正常操業度（天災などを除いた予定操業度）をベースに予算を組み、そこから予定配賦率（要は単価）を算出し毎月の原価計算に反映させるのですね。

では、いつものタイムテーブルで製造間接費の予定配賦の流れを確認しましょう。

Step1~Step5 の流れを強く意識して下さい



① 基準操業度の決定

理論的生産能力：通常は使わない。実際的生産能力算定の為に使う程度

実際的生産能力（能力）：部門別の固定費配賦基準として使うケースが多い

平均操業度（正常）：過去の数値（5年平均で単年度の異常な数値を均す）を基に計算

期待実際創業度（予定）→予定消費量などは、この数値から算定する（未来的）

これは1級論点です。2級では与えられます。

でもイメージしておいた方が理解に役立ちます。特に部門別や標準原価計算の理解の助けになります。動画で簡単に説明させていただきます。

<例>

理論的生産能力 $365日 \times 24時間 \times 2台（の機械） = 17,520時間$

実際的生産能力 $353日 \times 20時間 \times 2台 = 14,120時間$

平均操業度 過去3年 $(14,200 + 13,250 + 15,000) \div 3 = 14,150$

期待操業度 本年の生産予定量 $4,400個 \times (1個あたり加工時間3時間) = 13,200$

どれを取るかで、製造間接費の予定配賦率がかわってきます。

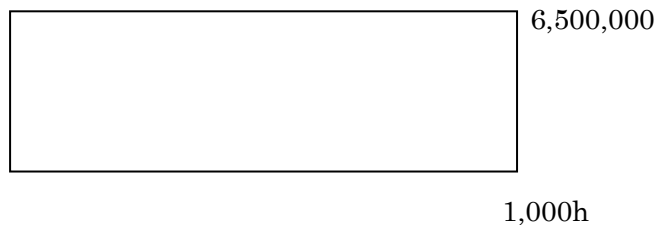
② 製造間接費予算の設定

当社では直接作業時間に比例して製造間接費が発生すると考えます。(機械時間で計算する会社もあります)

●固定予算：基準操業度の予算のみ作成する（固定費予算ではない）

固定予算＝予算が固定化されている（固定費の予算ではありません）

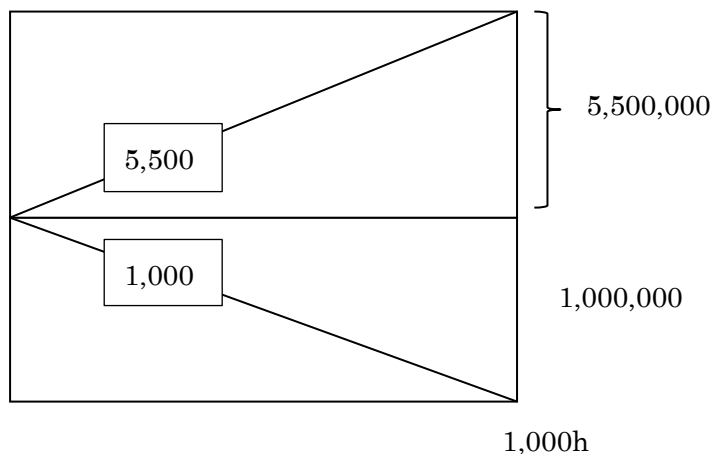
	1,000 時間（基準）
間接材料費	2,500,000
間接労務費	400,000
水道光熱費	1,800,000
減価償却費	1,800,000
合計	6,500,000



●公式法変動予算（予算を2個つくる）実務では大変

公式法変動予算＝予算が公式で求められる

	1,000 時間（基準）	1,200 時間	変動費	固定費
間接材料費	2,500,000	2,800,000		
間接労務費	400,000	600,000		
電力量	1,800,000	2,400,000		
減価償却費	1,800,000	1,800,000		
合計	6,500,000	7,600,000	5,500	1,000,000



予定配賦率 = 予算総額 ÷ 基準操業度

この場合は、固定予算でも公式法変動予算でも 6,500 円になります

では基準操業度と予定配賦率がわかったところで、例題にいきましょう

資料 1. 直接作業時間を配賦基準として製造間接費を各製造指図書に配賦した。
なお、当工場の年間の製造間接費予算は 480,000 円（うち変動費 180,000）、年間の予定直接作業時間は 1,200 時間である。

資料 2. 当月の製造間接費の実際発生額は 42,000 円、直接作業時間 80 時間、段取時間 10 時間、手待時間 10 時間であった、

1. 予定配賦率を求めなさい

$$\text{予定配賦率} = 480,000 \text{ 円} \div 1,200 \text{ 時間} = @400$$

2. 当月の予定配賦額を求めなさい

$$400 \times 90 = 36,000$$

3. 差異分析を行いなさい（詳しくは動画で解説します）

外食と寮の予算を計算した第 1 回の講座を思い出して下さい

予算は固定費（ $300,000 \div 12 = 25,000$ ）と変動費（ $180,000 \div 12 = 15,000$ ）にわかれます

変動費というのは操業度によってかわります。変動費の時間単価は（ $180,000 \div 1,200 \text{ 時間} = 150 \text{ 円}$ ）

では当月の 90 時間の実際時間（操業度）における予算はいくらでしょう

$$@150 \times 90 + 25,000 = 38,500 \text{ 円} \text{ となります}$$

この金額（38,500 円）と実際金額の差を予算差異と言います

$$38,500 \text{ (予算)} - 42,000 \text{ (実際)} = 3,500 \text{ 円 (不利差異)}$$

もう一つ経営者的な視点から・・・

当社はセミナールームを借りています。月の家賃が 300,000 円とします。

私は経営者なので、何もしなくても毎日 10,000 円が出ていくという意識があります。

もともと毎日セミナーするつもりだったが、受講者集まらず 24 日しかセミナー実施できなかったら 6 日分損をしたと考えます。これを<操業度が足らなかったロス>=<操業度差異>といいます。

いくらでしょうか。60,000 円のロスですね。

操業度のズレと固定費の単価をかければいいのですね。

今回の事例では、単価は $(300,000 \div 1,200 = 250)$ 円です

ロスは 10 時間なので、操業度差異は 2,500 円 (不利差異) となります

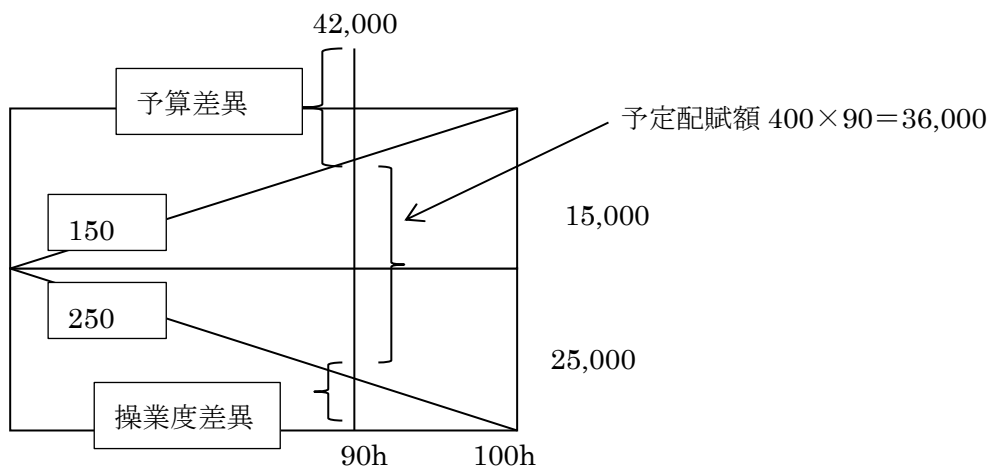
③ 差異分析

総差異 (予定配賦額 - 実際発生額)

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{予算差異} \quad \text{予算額} - \text{実際発生額} \\ \text{操業度差異} \quad \text{総差異} - \text{予算差異} \end{array} \right.$$

固定予算と公式法変動予算は**予算額**が違うだけです

これを図にしてみましょう



総差異 = $42,000 - 36,000 = 6,000$ (不利差異)

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{予算差異} = (150 \times 90 + 25,000 = 38,500) - 42,000 = 3,500 \text{ (不利差異)} \\ \text{操業度差異} = 250 \times 10 = 2,500 \text{ (不利差異)} \end{array} \right.$$

シュラッター図といいます。図で解き方だけをイメージすると応用問題に対応できません

先ほどの説明をこの図に書き込みながら動画で詳しく説明します。

ここが一番大事なところです。しっかりと押さえて下さい

固定予算もみておきましょう

ポイントは問題文から変動費と固定費を分ける事ができなければ固定予算で問われているという事です。

さきの問題であれば

予算差異は操業度にかかわらず当初設定予算（40,000 円）との差→2,000（不利差異）

総差異が 6,000 円なので操業度差異は逆算で 4,000 円（不利差異）となります

ポイントは、いずれの予算管理でも＜予定配賦率＞＜予定配賦額＞もはじめです

結局操業度差異は差の概念という事です

但し、公式法変動予算を使った場合は、より厳密な責任会計にはなりません



●未経験者の方が良い！

確信している事があります。

経理の仕事は誰でもできます。これは間違いありません。

仕訳ができれば、弥生会計に入力。もちろん他のソフトでもOKです。

職業訓練の受講生から、「私は一般事務しか経験していません」「接客しか、した事がない」「営業事務の経験は長いのですが・・・」

いつも言います「何言ってるのですか。素晴らしい！ではないですか」

私が言いたいことは一つです。

経理の仕事は一部の特殊法人などを除けば、やる事は決まっています。業種もほとんど関係ありません。「取引を原因と結果に分ける作業」さえできれば、しくみ通りの転記を行う事で誰が作っても同じ結果（財務諸表）ができあがる。特に弥生会計をはじめとするパソコンソフトを使えば、「誰でもできる」事は間違いありません。

それに対して、営業事務も接客業も目の前で起こる様々な事柄に対応する能力が要求されます。お金を扱う部署だけに社内の色々な部署とのコミュニケーションが求められる。これは簿記の勉強で得られる経験ではありません。

色々な経験のある方こそ、企業が求めている人材です。

仕事の性質から中小企業の経理の求人担当者に会う方が多いです。

「本当に経験者が必要ですか？」

「いや、そんな事はない。むしろ前の会社の経験を引きずらない分、謙虚に仕事に接してくれる未経験者の方がいいかもしれない」

もちろん、担当者の急な退職で経験者でなければならないケースもあります。でもそのようケースはレアケースです。

税制改正、会計基準変更など経理担当になると様々な法令改正についていく必要があります。弥生検定、日商簿記、税理士等の様々な資格にチャレンジする自己啓発能力の高い人をこそ、企業は求めています。

この書籍を手にとった方には、十分にその素養があります。頑張ってください。



講師横山の著書

「弥生検定攻略テキスト」
コラムより抜粋

龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記5> 部門別計算

全7枚



無料講座

月に一回

質問も無料ぜよ



最近の出題事例

129 : 12点は簡単

差異分析の仕訳は難

130 : 勘定の流れ押さえないと難

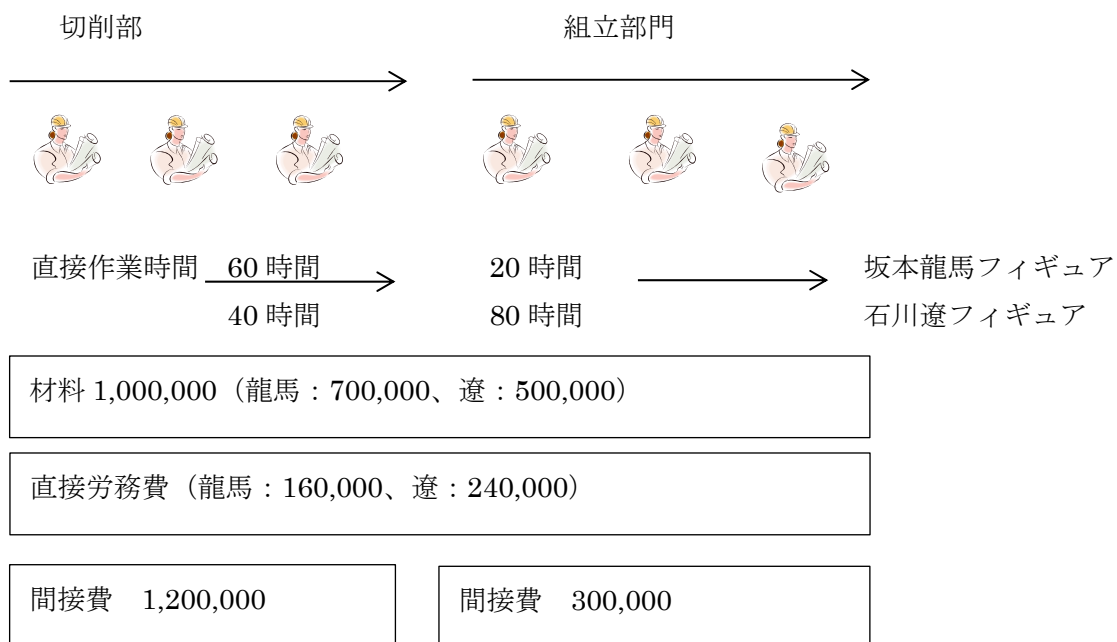
135 : 満点とりやすい

弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

1. 部門別計算を行う意味

まずは下の図を確認して下さい。



これを前回のような基準（直接作業時間）で間接費配賦すると

$$\text{間接費 } 1,500,000 \div 200 = @7,500$$

$$\text{龍馬 : } 7,500 \times 80 = 320,000、\text{遼 } 7,500 \times 120 = 480,000$$

	坂本龍馬フィギュア	石川遼フィギュア	合計
材料費	700,000	500,000	1,200,000
労務費	160,000	240,000	400,000
製造間接費	600,000	900,000	1,500,000
合計	1,460,000	1,640,000	3,100,000
完成品数量	1,000	1,000	
完成品単位原価	1,460	1,640	
売価(2割乗せ)	1,752	1,968	

この資料を元に取り締役会を開き、営業部でローラー作戦を実施しました。

でも石川遼Fは売れず、坂本龍馬Fは売れまくりました。

なのに、経営（資金繰）は苦しくなるばかり

なぜ、こんな結果になったのでしょうか？

ここに部門別原価計算の必要性があるのです

さきほどの原価計算を部門別に計算してみましょう

間接費の計算がかわります（直接費は龍馬・遼ともに計算方法はかわりません）

<切削部門>の間接費の配賦

$$1,200,000 \div 100 = @12,000$$

$$\text{龍馬 } 12,000 \times 60 = 720,000$$

$$\text{遼 } 12,000 \times 40 = 480,000$$

<組立部門>

$$300,000 \div 100 = @3,000$$

$$\text{龍馬 } 3,000 \times 20 = 60,000$$

$$\text{遼 } 3,000 \times 80 = 240,000$$

これで原価計算表を作ると

	坂本龍馬フィギュア	石川遼フィギュア	合計
材料費	700,000	500,000	1,200,000
労務費	160,000	240,000	400,000
製造間接費（切削）	720,000	480,000	1,200,000
製造間接費（組立）	60,000	240,000	300,000
合計	1,640,000	1,460,000	3,100,000
完成品数量	1,000	1,000	
完成品単位原価	1,640	1,460	
売価(2割乗せ)	1,752	1,968	

競合他社が石川遼を 1,752 円で販売していると勝てません！！

競合が坂本龍馬を 1,968 円で販売していると勝てますが、ほとんど利益はあがりません。

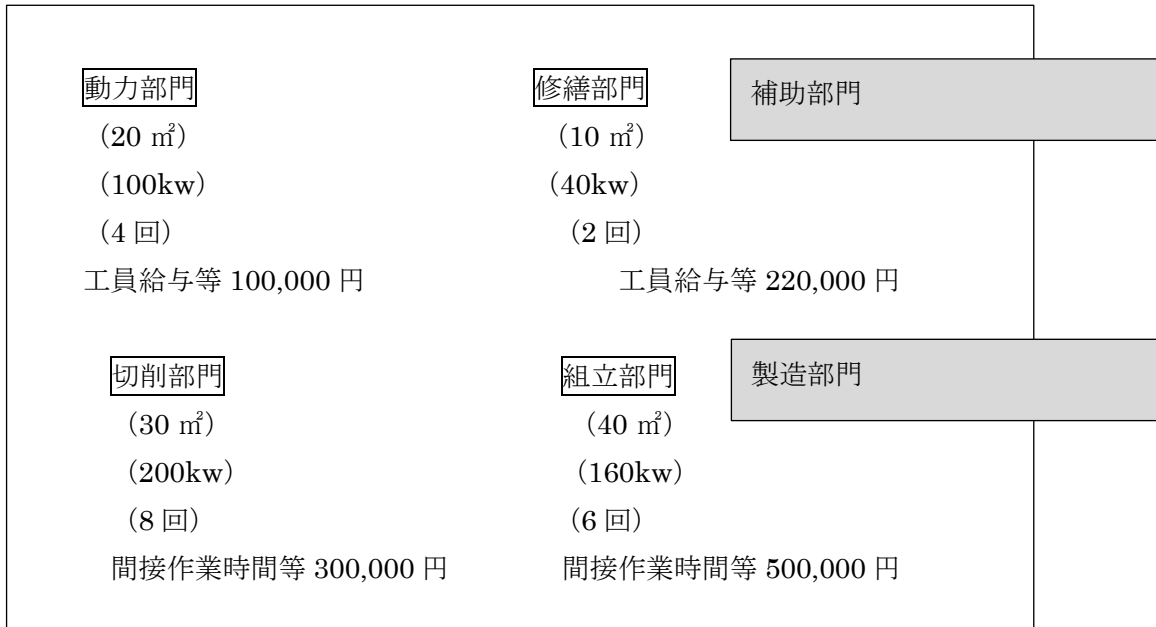
石川遼が在庫になって、トータウ利益は赤字になります。

このように、できるだけ真実の原価に近づけるための方法が部門別計算なのです

2. 部門別計算をイメージしよう

テキストは読まれていると思います。基本的な事は動画で解説します。
イメージを持つことが大切です。さきほどの計算はクリアしましょう。

部門共通費 <工場（家賃 1,000,000） 電気代（300,000）>



では部門別原価計算表を作ってみましょう（まずは直接配賦法）

摘要	合計	切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門
部門個別費	1,120,000	300,000	500,000	100,000	220,000
部門共通費					
減価償却費	1,000,000	300,000	400,000	200,000	100,000
水道光熱費	300,000	120,000	90,000	60,000	30,000
部門費	2,420,000	720,000	990,000	360,000	350,000
動力部門	360,000	200,000	160,000		
修繕部門	350,000	200,000	150,000		
製造部門費	2,420,000	1,120,000	1,300,000		

大丈夫ですね。直接製造している部門だけで配分するので直接配賦法です。

では、石川遼フィギュアと坂本龍馬フィギュアにかかった間接費を配賦しましょう

当月の直接作業時間は下記の通りです

	切削部門	組立部門
坂本龍馬	500 時間	600 時間
石川遼	620 時間	700 時間

では間接費の計算をしましょう

	切削部門	組立部門	合計
坂本龍馬	500,000	600,000	1,100,000
石川遼	620,000	700,000	1,320,000

3. 部門別の予定配賦

近藤管理部長から「製造間接費を部門別に管理したのはいいが、予定配賦できなくなったではないか!」とお叱りの声。工場長のあなたは、「やってやろうじゃねえか」とタンカをきりました。

では、頑張りましょう。少し難しいですが、これを突破すれば、2級の第4問は制覇したも同然です。

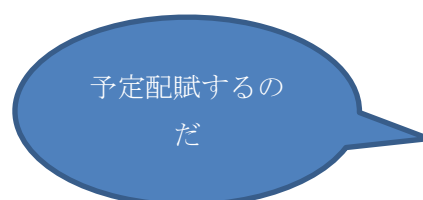
例えば、下記の部門別予算管理表が事前に設定されていたと仮定します

摘要	合計	切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門
部門個別費					
部門共通費	細かい計算は省略しています。 合計の製造部門費のみ掲載しています				
減価償却費					
水道光熱費					
部門費					
動力部門					
修繕部門					
製造部門費		12,000,000	14,400,000		
直接作業時間		9,600 時間	18,000 時間		

そうすると、部門毎の予定配賦率が出せますね

$$\text{切削部門} = 12,000,000 \div 9,600 = @1,250 \text{ 円}$$

$$\text{組立部門} = 14,400,000 \div 18,000 = @800$$



そうすると、予定配賦はどうなるでしょうか？

	切削部門	組立部門
坂本龍馬	500 時間	600 時間
石川遼	620 時間	700 時間
合計時間	1,120 時間	1,300 時間
予定配賦率	1,250 円	800 円
予定配賦額	1,400,000	1,040,000

仕訳は

仕掛品 2,440,000 / 切削部門費 1,400,000
組立部門費 1,040,000

実際は先の計算 (P4) の通り、切削部門は 1,120,000、組立部門は 1,300,000 でした。

今度は土方管理部長が登場

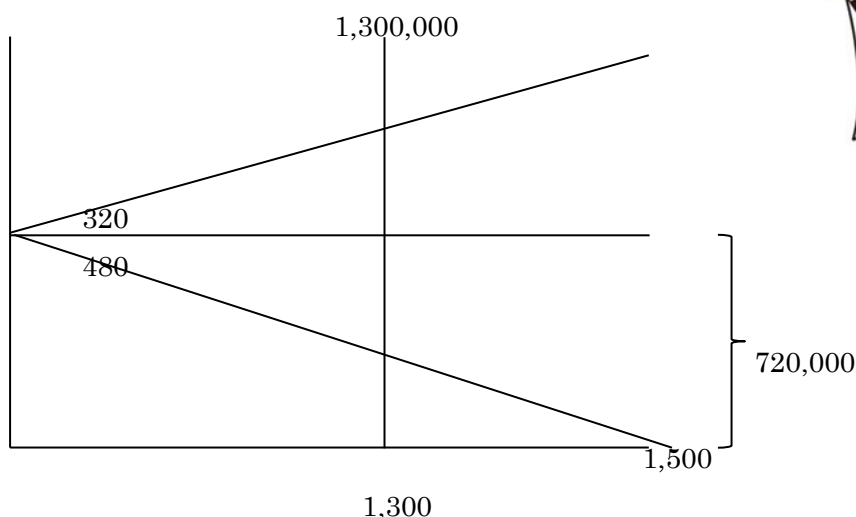
「組立部門！ 予算オーバーしすぎだ！ 差異分析しろ！」

工場長は、組立部門の変動費と固定費を洗い出しました

	予算	実績
変動費	480,000	1,300,000
固定費	720,000	

差異分析するの
だ

組立部門予算のうち 40% が変動費である



$$\text{予算差異} = 320 \times 1,300 + 720,000 - 1,300,000 = -164,000$$

$$\text{操業度差異} = (1,300 - 1,500) \times 480 = -96,000$$

やっと一息。来月に向けての組立部門の改善策を考えていると、とどめの沖田管理係長が登場

「もっと精度の高い方法で実際の計算をしろ」との事で、各補助部門間のやり取りを計算に含めろ、との事でした。これを相互配賦法といいます。

では、やってみましょう

摘要	合計	切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門
部門個別費	1,120,000	300,000	500,000	100,000	220,000
部門共通費					
減価償却費	1,000,000	300,000	400,000	200,000	100,000
水道光熱費	300,000	120,000	90,000	60,000	30,000
部門費	2,420,000	720,000	990,000	360,000	350,000
第1次配賦					
動力部門	360,000	180,000	144,000	-	36,000
修繕部門	350,000	140,000	105,000	105,000	-
第2次配賦				105,000	36,000
動力部門	105,000	58,333	46,667		
修繕部門	36,000	20,571	15,429		
製造部門費	2,420,000	1,118,904	1,301,096		

※端数処理は四捨五入とする

P4の計算と比べて下さい。

相互配賦法は厳密な方法ですが、結果的には製造部門費に大きな差はでませんでした。従って実務では圧倒的に直接配賦法が使われていました（現在はシステム化で、より厳密な方法がつかわれています）



切れ味の良い計算をしましょう

原価計算表の合計欄（左側）には通常配点はきませんので、完全に覚えなくても大丈夫です。

作問者が問いたいのは、計算プロセスがあっているかと、最後の部門費合計（一番下の各部門費の金額）です。

あまり神経質にならないようにしましょう。

龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記6> 個別原価計算

全3枚



無料講座

月に一回

質問も無料ぜよ



最近の出題事例（原価計算表）

127 悪くても14点は取れる

138 差異分析できなくても16点

弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

1. 個別原価計算のまとめ問題

下の問題は過去問の類題に勘定記入を加えたものです。

解けるかどうかは別にして、一度チャレンジしてみてください。時間は20分くらいです。

その後に解説を聞いて頂く方が、より理解が深まります。

<問題>

当工場では、実際個別原価計算を行っている。次に示した同工場の資料に基づき次の問に答えなさい

11月末時点の原価計算表

製造#	着手日	完成日	引渡日	直接材料費	直接労務費	製造間接費	合計
101	10/7	10/21	11/5	500,000	800,000	1,000,000	2,300,000
102	10/12	11/3	11/11	300,000	600,000	1,200,000	2,100,000
103	10/27	11/15	11/17	200,000	400,000	600,000	1,200,000
104	11/10	11/30	12/5	300,000	400,000	500,000	1,200,000
105	11/18	12/15	12/17	400,000	300,000	400,000	1,100,000

10月末時点の原価計算表

製造#	直接材料費	直接労務費	製造間接費	合計
101	500,000	800,000	1,000,000	2,300,000
102	300,000	500,000	1,000,000	1,800,000
103	200,000	300,000	500,000	1,000,000

問1 10月末における仕掛品有高と製品有高を求めなさい

問2 11月の直接材料費、直接労務費、製造間接費はいくらか

問3 11月末日における製品完成の仕訳を示しなさい。但し科目は次の中から選択する事
売上原価・製品・仕掛品・売上高・製造間接費

問4 11月末日における仕掛品有高と製品有高を求めなさい

問5 11月の売上原価を求めなさい

問6 仕掛品勘定と製品勘定を完成しなさい

問 1 仕掛品 2,800,000
製品 2,300,000

問 2 直接材料費 700,000
直接労務費 900,000
製造間接費 1,200,000

問 3 製品 4,500,000 / 仕掛品 4,500,000

問 4 仕掛品 1,100,000
製品 1,200,000

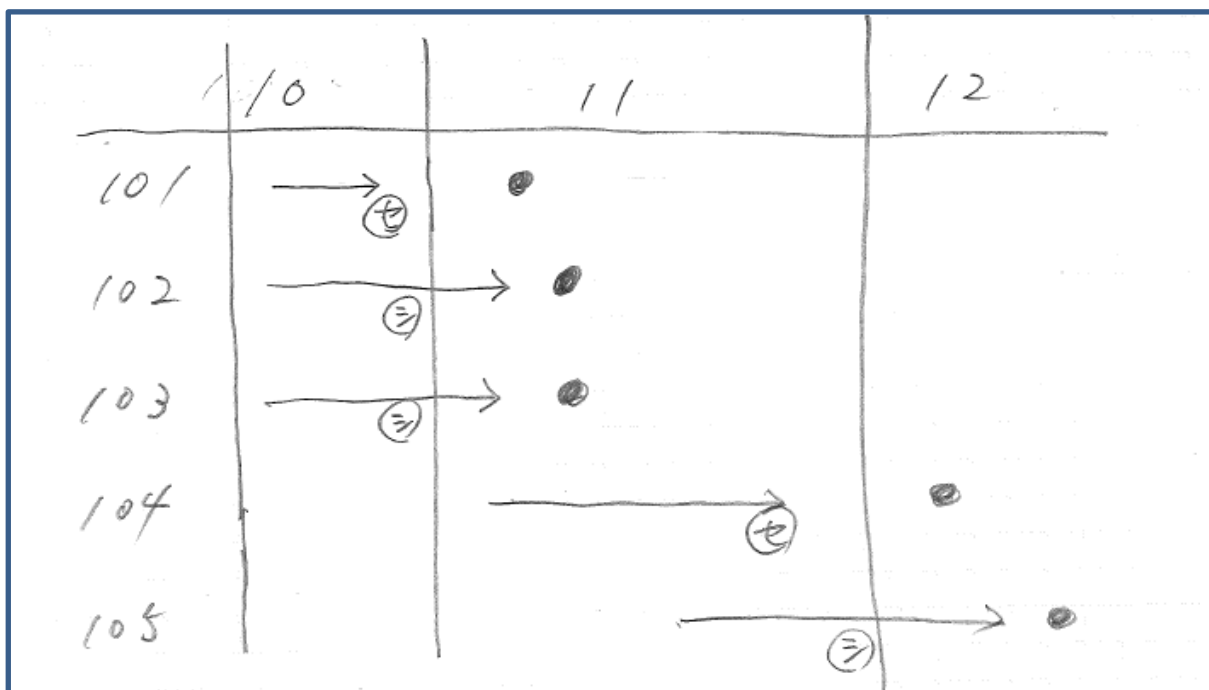
問 5 売上原価 5,600,000

仕掛品

前月繰越	2,800,000	製品	4,500,000
直接材料費	700,000	次月繰越	1,100,000
直接労務費	900,000		
製造間接費	1,200,000		

製品

前月繰越	2,300,000	売上原価	5,600,000
仕掛品	4,500,000	次月繰越	1,200,000



龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記7> 総合原価計算

全5枚



無料講座

月に一回

質問も無料ぜよ



弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

1. 総合原価計算

チキンラーメン・じゃがりこ・チョコレート、私たちがコンビニなどで手に取るものは今までの個別原価計算で計算するでしょうか。

1か月に10,000個作るチキンラーメン（本当はもっと作っているはず）、1個ずつ直接材料費、直接労務費、製造間接費を原価計算表に書くでしょうか？

そんな事はありませんね。



チキンラーメンを1か月に10,000個つくった。

合計の原価は材料費が100,000円、労務費や機械のレンタル料金（減価償却費）が300,000円とします。

合計400,000円の原価を10,000個で割れば40円という原価が計算できます。



10,000個つくって
400,000円
計算は簡単じゃ



このように大量生産に向く原価計算方法を総合原価計算といいます。

ある意味簡単な考え方です。

でも、400,000円かかって、5,000個完成して5,000個が未完成だったら（袋に詰める前）1個あたり40円といえるでしょうか。言えませんね。単価を算出するには、同じ状態でなければ正しく計算できません。

もっと簡単にしましょう。

2個生産開始、材料は1個1,000円、完成するまでの手間賃（加工費といいます＝直接材料以外）が1個あたり1,000円とします。1個完成、1個は半分まで加工終了。

簿記の問題風に表現してみると、次のようになります。

材料代は2個に2,000円、加工賃は2個で1,500円かかった。

1個は完成し、1個は50%まで作業が終了した。

完成品の原価を計算しなさい。

合計の原価は3,500円です。

1個1,750円と考えるでしょうか？完成度が違うものを単純に割って単価はできません。

材料は1個1,000円です。2,000÷2です。これは納得です。

でも加工は1個と0.5個分、1,500円を1.5で割り1,000円の単価で計算すべきです。

これは板に塗装を施す作業で考えれば簡単に理解できます。



月末の段階でかかった材料費は2個で2,000円

手間賃（加工費）は1.5個分で1,500円

完成品 = 1個 × 進捗率 100% = 1

月末仕掛品 1個 × 進捗率 50% = 0.5

1,500円を完成品1.5個分で割ればいいのですね。

この計算の仕組みが分かれば、やはり総合原価計算は簡単です。でもこれだけだったら簡単すぎます。

試験では下記のような論点が問われます

①月初に在庫がある問題が出題されます。論点は単価の計算方法です。平均法と先入先出法があります。

②不良品のコストをどのように原価にONするか。仕損・減損というテーマです

③生産方法別の計算方法です。2工程以上の計算、2種類以上の（ほぼ）同時生産。工程別総合原価計算、組別総合原価計算、等級別総合原価計算の論点です。

④複数の材料を使用するパターン。実務では一般的ですよ。材料の追加投入の論点です

今日は①②の論点を説明します。頑張りましょう。

2. 月末商品の計算方法

次の資料に基づいて、平均法により、月末仕掛品原価、完成品原価、完成品単位原価を計算しなさい。なお直接材料は工程の始点で投入している。

生産データ

		直接材料費	加工費
月初仕掛品	40 個 (80%)	272,000	230,400
当月投入	2,200	2,068,000	1,651,200
合計	2,600	2,340,000	1,881,600
月末仕掛品	600 (40%)		
完成品	2,000		

①平均法

②先入先出法

3. 仕損・減損

		直接材料費	加工費
月初仕掛品	なし	—	—
当月投入	2,200	660,000	540,000
合計	2,200	660,000	540,000
仕損	200 (終点)		
月末仕掛品	500 (60%)		
完成品	1,500		

①完成品負担

②両者負担

龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記8,9,10> 各種総合原価計算

全8枚



無料講座

月に一回

質問も無料ぜよ



最近の出題事例

137回 (組別+P/L) 簡単

131回 (工程別) 簡単

130回 (単純) 材料2種類 少々難

129回 (組別) 簡単

128回 (等級別) 簡単

弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座 (無料動画で公開中)

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

8回目. 等級別総合原価計算



複数製品の原価計算をもっとも簡単な手続きで計算する方法です
イメージとしてはポテトのSとLサイズがわかりやすいでしょう

ポテト 500g にかかった原価が 1,500 円

Lが 10 袋、Sが 10 袋

1,500 ÷ 20 でいいでしょうか？ 良くないですね。

Lの量はSの量の2倍と仮定します。計算してみてください

Sに換算すると、30袋分ですね

$1,500 \div 30 = 50$ 円

という事はLの原単価は 100 円ですね

この割合 (1 : 2) の事を等価係数といいます。

では例題を解きながら考え方および、計算方法を説明します

<例題>

当社は、単一工程で製品 X と製品 Y を量産し、等級別総合原価計算を行っている。

下記の【資料】に基づいて、製品 X と製品 Y の完成品単位原価を求めなさい。

ただし、原価配分の方法は先入先出法で行うものとする。

【資料 1】

	生産データ	直接材料費	加工費
月初仕掛品	600 個 (50%)	190,000 円	245,000 円
当月投入	3,800 個	950,000 円	1,005,000 円
合計	4,400 個	1,140,000 円	1,250,000 円
月末仕掛品	400 個 (80%)		
完成品	4,000 個		

【資料 2】

完成品の等価係数

等級製品	X	Y	合計
等価係数	1.0	0.6	—
完成品量	2,500 個	1,500 個	4,000 個

【答案用紙】

等級製品 X () 円/個

等級製品 Y () 円/個

【解答】

等級製品 X (650) 円/個

等級製品 Y (390) 円/個

9回目. 組別総合原価計算

同じ製造ラインで、別の製品（似たもの）をつくる場合の計算方法
自動車・時計 Etc いろいろな分野で使われている（いた）ようです
ただ最近ではFOAの進展で、色々な手法で「より精度の高い」原価計算が行われている

今日は、私が昔バイトをしていたユーハイムのケーキでイメージしましょう



ケーキの生産手法はほとんど同じ
イチゴショートとメロンショートでは使う材料が違うだけ

加工費（コンベアのレンタル料金とします）は使う時間で按分すれば簡単に計算できます

では、例題を確認しましょう

組別総合原価計算を採用している当社の当期における次の資料に基づいて、各問に答えなさい。

【資料】

(1) 生産データ

	X 製品	Y 製品
期首仕掛品	—	—
当月投入分	1,000 個	1,200 個
合 計	1,000 個	1,200 個
月末仕掛品	400 個	400 個
当期完成品	600 個	800 個

(注)原材料は工程の始点ですべて投入される。また、期末仕掛品の加工進捗度はすべて 50%である。

(2) 原価データ

	X 製品	Y 製品	合計
直接材料費	1,000,000 円	960,000 円	1,960,000 円
直接労務費	600,000 円	400,000 円	1,000,000 円
組間接費	各自計算	各自計算	3,000,000 円
合 計	?	?	5,960,000 円

(注)組間接費は、直接労務費を基準として各製品に配賦する。

問1 組間接費の各製品に対する配賦額を計算しなさい。

問2 X 製品の完成品総合原価と期末仕掛品原価を計算しなさい。

【答案用紙】

問 1

X 製品への配賦額 (円)

Y 製品への配賦額 (円)

問 2

X 製品完成品総合原価 (円)

期 末 仕 掛 品 原 価 (円)

【解答】

問 1

X 製品への配賦額 (1,800,000 円)

Y 製品への配賦額 (1,200,000 円)

問 2

X 製品完成品総合原価 (2,400,000 円)

期 末 仕 掛 品 原 価 (1,000,000 円)

10回目. 工程別総合原価計算

個別原価計算では部門別に原価計算を行いました。より精度の高い間接費の計算という意味でした。実は部門別計算には、責任会計という概念があります。どの部門で原価がかかりすぎているかを確認するのですね。

総合原価計算でも、部門別に計算する事で原価のかかり具合を確認する事ができます。特に加工費のかかり具合を確認する事で、改善活動につなげる事ができるのです。

簿記の問題として考え方は簡単です

では、これも例題を解きながら解説しましょう

CMC工場では、2つの工程を経て製品Xを連続生産しており、墨加法による工程別総合原価計算を行っている。製品Xの当月の生産実績は次の通りであったとして、工程別の仕掛品勘定の（ ）内に適当な金額を記入しなさい。なおCMC工場では、第1工程、第2工程ともに、平均法を用いて原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品原価を計算しなさい。

【資料】

	第一工程	第二工程
月初仕掛品	200kg (1/4)	400kg (1/4)
当月投入	1,400 kg	1,200 kg
合計	1,600 kg	1,600 kg
月末仕掛品	400kg (3/4)	500kg (2/4)
仕損	—	100kg
完成品	1,200 kg	1,000 kg

(注1)原料は全て第1工程の始点で投入される。

(注2)第2工程の終点で仕損が発生している。それは通常発生する程度のもの(正常仕損)であるので、仕損費は全て完成品に負担させる。

(注3) ()内の数値は加工進捗度を示している。

【答案用紙】

仕掛品—第1工程 (単位：円)

月初有高：		次工程振替高：	
原料費	(40,000)	原料費	()
加工費	(65,000)	加工費	()
小計	(105,000)	小計	()
当月製造費用：		月末有高：	
原料費	(200,000)	原料費	()
加工費	(310,000)	加工費	()
小計	(510,000)	小計	()
	(615,000)		()

仕掛品—第2工程 (単位：円)

月初有高：		当月完成高：	
前工程費	(80,000)	前工程費	()
加工費	(95,000)	加工費	()
小計	(175,000)	小計	()
当月製造費用：		月末有高：	
前工程費	(?)	前工程費	()
加工費	(445,000)	加工費	()
小計	(925,000)	小計	()
	(1,100,000)		()

【解答】

仕掛品－第1工程 (単位：円)

月初有高：		次工程振替高：	
原料費	(40,000)	原料費	(180,000)
加工費	(65,000)	加工費	(300,000)
小計	(105,000)	小計	(480,000)
当月製造費用：		月末有高：	
原料費	(200,000)	原料費	(60,000)
加工費	(310,000)	加工費	(75,000)
小計	(510,000)	小計	(135,000)
	(615,000)		(615,000)

仕掛品－第2工程 (単位：円)

月初有高：		当月完成高：	
前工程費	(80,000)	前工程費	(385,000)
加工費	(95,000)	加工費	(440,000)
小計	(175,000)	小計	(825,000)
当月製造費用：		月末有高：	
前工程費	(480,000)	前工程費	(175,000)
加工費	(445,000)	加工費	(100,000)
小計	(925,000)	小計	(275,000)
	(1,100,000)		(1,100,000)

龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記11> 工業簿記の財務諸表

全5枚



無料講座

月に一回

質問も無料ぜよ



最近の出題事例

137回 (C/R+仕掛品勘定) 簡単

134回 (P/L・C/R) 簡単

弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座 (無料動画で公開中)

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

製造業だって財務諸表はあります

日商1級講座で、日商2級の財務諸表全般の解説をしています。そちらを確認しましょう

1. 商業簿記と工業簿記の違い

<商業簿記は2級の論点を復習しながらでも対応可能

<工業簿記・原価計算は、2級の内容をしっかりと学習しないと躓きます

2. 営業利益の計算

次の資料1～3により、営業利益を計算しなさい。

【資料】

1. 期首残高

主要材料 2,000千円 仕掛品 4,000千円

補助材料 800千円 製品 6,000千円

2. 期中取引

(1) 材料掛仕入高

主要材料 30,000千円 (消費額は直接材料費とする)

補助材料 1,600千円 (消費額は間接材料費とする)

(2) 当期賃金支払高

直接工賃金 8,000千円 (消費額は直接労務費とする)

間接工賃金 10,000千円 (消費額は間接労務費とする)

(3) その他の諸経費支払・発生高

間接経費 15,000千円

販売費及び一般管理費 30,000千円

(4) 当期売上高 100,000千円

3. 期末有高

主要材料 1,000千円 仕掛品 3,000千円

補助材料 400千円 製品 4,000千円

3. 工業簿記の財務諸表

実際原価計算を行っているCMC社の下記の資料に基づき、製造原価報告書及び損益計算書を作成しなさい。製造間接費の予定配賦から生ずる原価差額は、売上原価に課するものとする。

【資料】

(単位：千円)

- (1) 直接材料期首有高 40,000 (10) 直接材料期末有高 30,000
- (2) 仕掛品期首有高 30,000 (11) 仕掛品期末有高 25,000
- (3) 製品期首有高 50,000 (12) 製品期末有高 60,000
- (4) 直接工賃金期首未払高 15,000 (13) 直接工賃金期末未払高 18,000
- (5) 販売費及び一般管理費 20,000 (14) 直接材料当期仕入高 100,000
- (6) 製造間接費当期予定配賦額 75,000 (15) 直接工賃金当期支払高 50,000
- (7) 間接材料費当期実際発生額 16,000 (16) 売上高 300,000
- (8) 間接労務費当期実際発生額 25,000 (17) 営業外収益 50,000
- (9) 間接経費当期実際発生額 39,000 (18) 営業外費用 5,000

製造原価報告書

20X2年4月1日～20X3年3月31日 (単位：千円)

I 直接材料費

期首棚卸高 ()

当期仕入高 ()

計 ()

期末棚卸高 () ()

II 直接労務費 ()

III 製造間接費

間接材料費 ()

間接労務費 ()

間接経費 ()

計 ()

製造間接費差異 ()

製造間接費配賦額 ()

当期総製造費用 ()

期首仕掛品棚卸高 ()

合計 ()

期末仕掛品棚卸高 ()

当期製品製造原価 ()

損益計算書
売上高
売上原価
期首製品棚卸高
当期製品製造原価
計
期末製品棚卸高
差引
原価差異
売上総利益
販売費及び一般管理費
営業損失
営業外収益
営業外費用
経常利益

龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記12> 本社工場会計

全3枚



無料講座

月に一回

質問も無料ぜよ



最近の出題事例

133回(仕訳) 簡単

131回(仕訳) 厳密には本社工場の論点ではない

弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座(無料動画で公開中)

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

本社工場会計

皆さんは本支店会計の学習は済んでいると思います。

であれば日商 2 級の本社工場会計は楽勝です。

出てくる問題は仕訳だけです（万が一合併が出れば本支店会計と同じ要領＜足して内部取引相殺＞です）

解き方は次の要領です

- ①商業簿記に比べて与えられる科目は圧倒的に少ないので気を楽に
- ②一般的な仕訳をイメージしたら相手科目を本社にするだけ
- ③減価償却や福利施設負担が出たら製造間接費処理（ここだけ注意です）

では、これは過去問の類題で行きましょう（無料の過去問ゼミです）

134 回の類題で行きましょう

CMC社では川西市けやきに工場をもっており、本社会計から工場会計を独立させている。材料の発注と製品の販売は本社が行います。製品倉庫は本社にのみ存在する。本社からの材料搬入、工場からの製品発送に内部利益は付加していない。支払関連はすべて本社経理部にて行っている。

次の本社・工場における各取引を仕訳しなさい。

なお、4/1における残高試算表と使用する勘定科目は以下の通りである。

残高試算表

材料	100,000	貸金	50,000
仕掛品	150,000	本社	400,000
製造間接費	0		

現金、材料、仕掛品、製品、貸金、預り金、買掛金、製造間接費、本社、工場、当座預金、機械減価償却累計額

①材料 100,000 円を掛けて購入し、工場の材料倉庫に搬入された。

本社：工場 100,000／買掛金 100,000

工場：材料 100,000／本社 100,000

②工場従業員への給与 300,000 円を現金で支給した

本社：工場 300,000／現金 300,000

工場：貸金 300,000／本社 300,000

③製品製造に係る特許権使用料は 100,000 円であり他人振出の小切手で支払った

本社：工場 100,000／現金 100,000

工場：仕掛品 100,000／本社 100,000

④月次決算として機械の減価償却費を計上した。年間見積額は 1,200,000 円である

本社：工場 100,000／機械減価償却累計額 100,000

工場：製造間接費 100,000／本社 100,000

⑤製品 1,000,000 円が完成し、倉庫に搬入された

本社：製品 1,000,000／工場 1,000,000

工場：本社 1,000,000／仕掛品 1,000,000

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記13> 標準原価計算

全3枚



無料講座

月に一回

質問も無料ぜよ



最近の出題事例

- 137回 標準配賦率・配賦額・差異分析
- 127回 原価カード・消費量計算・差異計算
- 126回 仕掛品と損益計算書

全体理解していれば満点取りやすい

弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

収録が遅れ気味ですみません

また、本社工場会計の最初にUPした動画で、電車の音待ちのゴルフ素振りが入ってました（恥ずかしい）たぶん20人前後の方が見られたと思います（放送事故扱いにしました）・・・

ところで、今日から第5問で頻出の標準原価計算と直接原価計算に入ります。

工場長の立場（標準原価計算）、経営企画部の立場（直接原価計算）にかわります。

頭の切り替えが大事です。

頑張りましょう

今回は収録時間が長いです

36分までが前半

残り48分が後半という形で聞いて下さい

2015.1.25の段階では記帳部分（このレジユメの7ページ）は説明できていません。

2月前半に詳細論点という事であらためて収録させていただきます。

1. 標準原価計算とは

原価計算基準で規定されている計算方法は実際原価計算と標準原価計算だけです。

実際原価計算には予定価格による計算を含むことから、両者の相違は消費量を実際量で計算するか、「科学的・統計的調査に基づいた予定量」で計算するかの違いである

少し難しい概念ですが、「そんなものか」程度で結構です

テキストを読んだ感想はどうですか？どのテキストも掲載されている内容は同じですね

とりあえず流れを簡単に動画で解説します。その上で、詳細をみていきましょう

原価標準の設定

生産量の確認

標準原価の計算

実際との差異分析

記帳

では、ストーリー仕立てで確認していくことにします

2. 原価標準の設定

簡単にいうと目標単価です。この製品を1つ作る為には材料費や労務費そして製造間接費がいくらかかるかを経営会議で決定します。この原価を元に営業部は販売単価を決めますから間違えると経営に多大な影響を与える事になります。

社長「勝手にピンに近づくゴルフボールの目標単価を決めよう」

営業部長「社長、他社にない製品なのですが、できるだけ1個300円前後で販売したいと思います」

社長「工場長、どうかな」

工場長「生産量にもよると思います。昨年の標準仕様品に基づいて計算します。また、1,000,000個売れる前提で計算してみました。それによると、1個当たりの目標原価は材料費100円、直接労務費50円、各種の製造間接費が100円です」

社長「わが社の値入率は40%だね。という事は売価は350円か。1,000,000個売れて5,000万の粗利か」

財務部長「社長、石川遼選手にCMをお願いするという事を営業部から聞いていますが、5,000万以上かかります。」

社長「営業部長、売価をあげるか、販売量を増やすか、どちらかを考えて欲しい」

営業部長「石川選手が活躍すれば2,000,000個も夢ではないと思いますが」

工場長「2,000,000個なら材料の仕入価格や、間接費負担が低くなるので、材料費80円、労務費50円、製造間接費は60円未満になります」

社長「よし、じゃあ石川選手の活躍にかけてみるか」

全員の心「ギャンブルみたいだな・・・大丈夫だろうか？」

そんなこんなで、原価標準が決まりました。

1 ダース価格で作成してみました。



ボール 1 ダースの原価標準

直接材料費	80 円×12g=960 円
直接労務費	200 円×3h=600 円
製造間接費	225 円×3h=675 円
合 計	2,235 円

最終生産量は 2,016,000 個に決定しました。その上で、月間基準操業度（直接作業時間）の計算をしました
 $2,016,000 \div 12 = 168,000$ ダース（年間の生産目標）
 $168,000 \text{ ダース} \div 12 = 14,000$ ダース（月間の生産目標）
 $14,000 \times 3\text{h} = 42,000$ 時間

新規投資の機械の生産性を考慮して 41,600 時間を基準操業度に決定しました。

3. 生産量の確認と目標原価（標準原価）の計算

1 か月が経過しました。工場・営業部の頑張りもあり順調にスタートしました。
生産月報があがってきました。実績データですね。

生産量は 13,000 ダース、直接作業時間の集計は 38,500 時間でした

直接材料費は $85 \text{ 円} \times 157,000 = 13,345,000$ 円
直接労務費は $210 \text{ 円} \times 38,500 = 8,085,000$ 円
製造間接費はトータルで 9,560,000 円
合計で 30,990,000 円でした

さて、工場長の頭の中はどうなっているのでしょうか？

1 ダースで 2,235 円が目標単価

13,000 ダースつくったので 29,055,000 円。これが標準原価ですね。

実際との差額は 1,935,000 円の使いすぎだ（不利差異）うわー！どうしよう？

ここで慌てては工場長は務まりません。

工場の責任がどの程度あるのかを項目別に確認する事にしました

直接材料費： $80 \text{ 円} \times 12\text{g} \times 13,000 = 12,480,000$ 円

直接労務費： $200 \text{ 円} \times 3\text{h} \times 13,000 = 7,800,000$ 円

製造間接費：9,360,000（変動費 3,900,000）＜基準操業度における予算＞

すべての項目で予算オーバーですね。では、さらに詳細な分析を行いましょう

4. 差異分析

皆さんが工場長だったら「どういう言い訳」を考えますか

言い訳は嫌いだ！は恰好いいかもしれませんが、それでは可愛い部下の昇給・賞与をが減額される可能性があります。

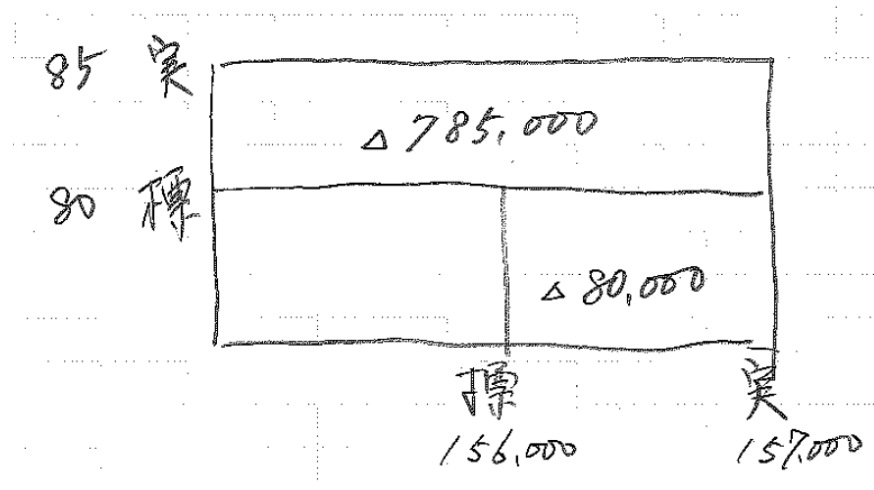
しっかり原因を追究して、工場側の責任部分を明確にして会議に臨みましょう

①まずは材料費からです

目標は $80 \text{ 円} \times 12\text{g} \times 13,000 \text{ (156,000)} = 12,480,000 \text{ 円}$

実際は $85 \text{ 円} \times 157,000\text{g} = 13,345,000$

価格は工場の責任ではないですね。という事は消費量の+1,000g分が工場側の責任になりそうですね

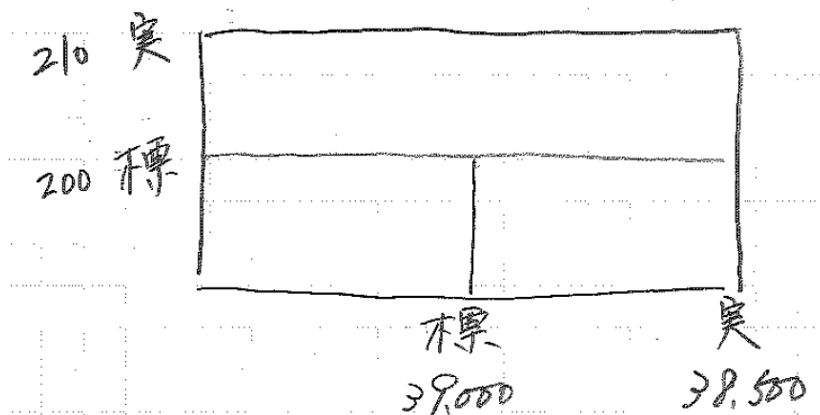


②続いて労務費です

目標は $200 \text{ 円} \times 3\text{h} \times 13,000 \text{ (39,000)} = 7,800,000 \text{ 円}$

実際は $210 \text{ 円} \times 38,500 = 8,085,000 \text{ 円}$

価格は微妙ですが（シフトを組むのが工場長なら工場側の責任も考えられます）、日商簿記2級では単価変動は工場側の責任とは考えません。時間は？これは工場が頑張ったのでしょうか。



③では最後に製造間接費を確認しましょう

まずは、予算差異からです

個別原価計算を思い出して下さい

変動費の予算は $3,900,000 \div 41,600 = 93.75$ 円 (1時間あたり)

固定費の予算は 5,460,000 円です。

このあたりは動画で解説します

予算許容額は $93.75 \text{ 円} \times 38,500\text{h} + 5,460,000 = 9,069,375$ 円

予算差異は $9,069,375 - 9,560,000 = 490,625$ 円

操業度差異は、基準操業度に満たない部分でしたね

基準操業度 41,600 時間 実際操業度 38,500 時間 3,100 時間の操業ロスがあったわけですね

固定費を時間単価にすると $5,460,000 \div 41,600 = 131.25$

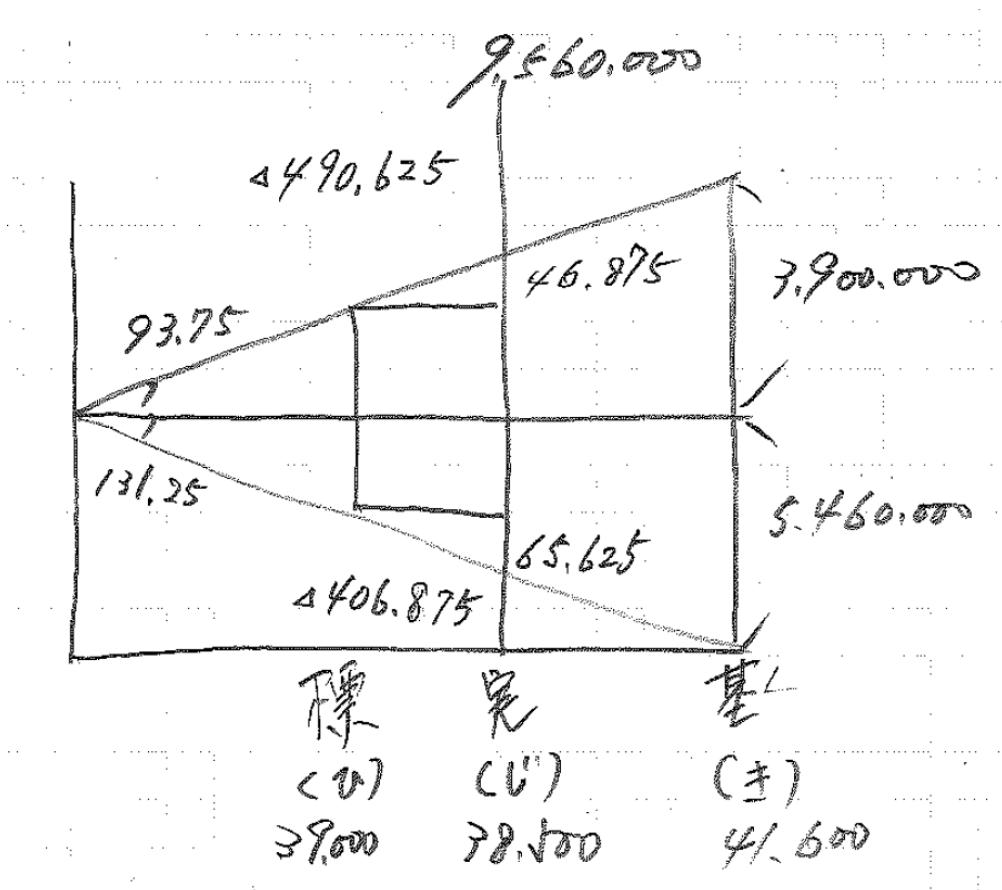
操業度差異は $131.25 \times 3,100 = 406,875$ になります

最後は能率差異です

13,000 ダース作る時の目標時間は 39,000 時間ですね。でも 38,500 時間ですんだ。これは作業能率が良かった差異ですね。能率差異と呼びます。

変動費部分は $93.75 \times 500 = 46,875$ 、固定費部分は $131.25 \times 500 = 65,625$

ではシュラッター図で確認してみましょう。



5. 記帳

パーシャル（部分）プランとシングル（1種類）プラン

処理方法は簡単です

仕掛品勘定の当月投入額を実際額で記入するか、標準額で記入するかの違いだけです。

記帳方法によって、差異の金額や完成品の金額が変わる訳ではありません。

差異の記入場所（発生場所）が変わるだけです。

今回のデータは期首・期末がなかったので別のデータで確認しましょう

原価カード	生産量	実際金額
直接材料費 100 円×3k=300	月初 100 (0.4)	直接材料費 350,000
直接労務費 200 円×2h=400	当月投入 1,000	直接労務費 500,000
製造間接費 300 円×2h=500	完成 800	製造間接費 600,000
合 計 1,200	月末 300 (0.8)	



満点！打ち抜くわ

佐那さん、その意気ぜよ
なかよし簿記講座の動画も見た
ほうが良いきに



標準原価計算の学習方法

1時間以上の講座は結構疲れると聞きます。そこで標準原価計算の学習方法を記しておきたいと思います。

①13 標準原価計算

まず 57 分まで聞きます

全体的な流れ

②57 分～最後（83 分）まで聞きます

差異分析の考え方

③13-2 なかよし簿記講座「標準原価計算編」35 分間

試験を解くためのテクニックの話をしています

標準原価計算と仲良くなろう(工場長の気持ちになろう)

①原価標準の設定

(工場長VS本社管理部)

材料費	
@100 × 2kg = 200	
労務費	
@200 × 3h = 600	
間接費	
@500 × 3h = 1,500	
合計	2,300

近い方を乗じると覚えよう

(月間製造間接費予算)
1,200時間
600,000円(内固定費予算480,000)

②生産量の把握

(新人からExcelで製造月報が届いた!)

40 (20)	400
380	
(390)	20 (10)

③実際原価の集計

(何故?こんなに原価が?)

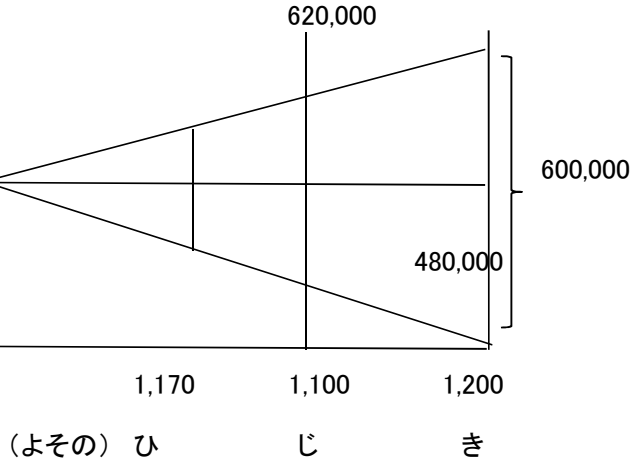
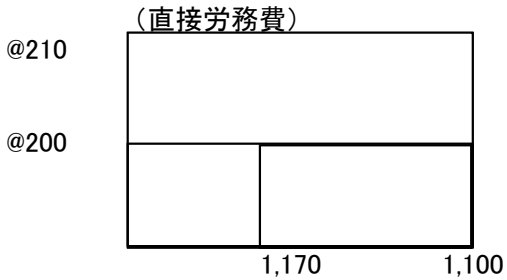
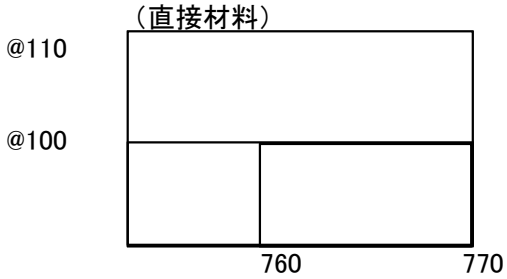
材料費	110円 × 770kg = 84,700
労務費	210円 × 1,100h = 231,000
製造間接費	620,000円

シュラッター図は、空欄を自分で作って、どの数値とどの数値が関連しているかを確認しよう
この図を1日1回書けば大丈夫

弥生カレッジCMCのホームページの最新情報でWEB解説を見る事ができます

④差異分析

(部下のボーナスを死守するぞ!)(やはり工業簿記)



龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記14> CVP分析

全5枚



無料講座

月に一回

質問も無料ぜよ

最近の出題事例

132回 直接原価計算とともに出題8点分

日商ではあまり問われないが、次回の直接原価計算を理解する為には大事

前半63分：CVP分析

残り14分：次回の直接原価計算の予習

後半は、次回の講座の前に聞いて頂いてもOKです

次回 2/4(水)20:00~

[ニコニコ会員登録\(無料\)はこちら!](#)

[弥生カレッジCMCのコミュニティー](#)

弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

1. CVP分析とは

まずは、下記の問題を解いてみて下さい

祭事があり、焼きそば店を出店する事にしました。

レンタルの鉄板焼き機などは1日90,000円です。

焼きそば1人前作るには材料費として120円いります。売値は300円とします。

さて、何人に売ればトントン（損も益も出ない状態＝分岐点）になるでしょうか。

1個売れば180円もうかりますね。

90,000円の固定費をカバーするためには？そうですね。 $90,000 \div 180 = 500$ （人）です

この時の売上高を損益分岐点売上高といいます。

$500 \times 300 = 150,000$ 円ですね

P/Lを作って確認しましょう

売上高 $300 \times 500 = 150,000$

変動費 $120 \times 500 = 60,000$

固定費 90,000

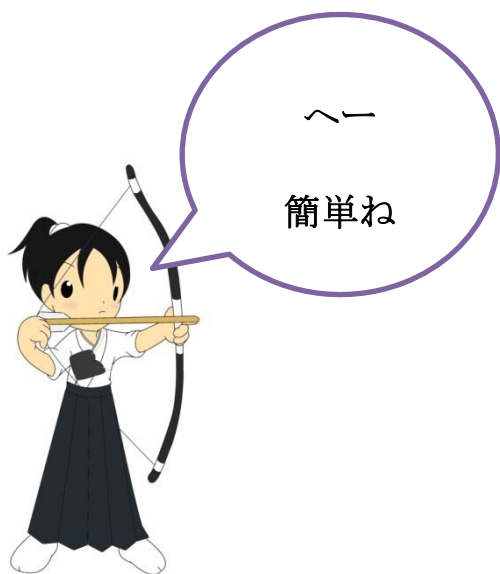
営業利益 0

この時の粗利（売上高－変動費）90,000円は固定費をカバーするのに貢献します

従って貢献利益（限界利益ともいう）といいます。

次に、手伝ってくれた近所のおばちゃんに達に晩御飯をごちそうしたい。

その打ち上げ費用が5,400円かかるとしましょう。



さて、何人に売ればいいでしょうか。

要は90,000円と5,400円をねん出しないといけないのですね。

簡単ですね。 $95,400 \div 180 = 530$ （人）です

売上高は？

$300 \text{円} \times 530 = 159,000$ 円です

同じくP/Lで確認しましょう

売上高 $300 \times 530 = 159,000$

変動費 $120 \times 530 = 63,600$

貢献利益 95,400

固定費 90,000

営業利益 5,400

CVP分析はたったこれだけの事です

難しく考えず、問題演習を行ってください

2. 方程式で解こう

方程式と聞くと「ダメ！」という方が多いのですが、 $2X=4$ は解けるでしょう。

$X=2$ ですね

この時に、両辺を2で割っているという事実に注目して下さい。

さきほどの焼きそば店の問題を確認しましょう。

X個売ればトントンとしてP/Lを作りましょう

売上高	$300 \times X = 300X$
変動費	$120 \times X = 120X$
固定費	90,000
営業利益	0

$$300X - 120X - 90,000 = 0$$

$$180X - 90,000 = 0$$

$$180X = 90,000 \text{ (両辺から } 90,000 \text{ 円を引いている)}$$

$$X = 500 \text{ (両辺を } 180 \text{ で割っている)}$$

次にX円売ればトントンというケースを考えてみましょう。

前ページの2つのP/Lを見ると単価ベースで売上300円と変動費120円の比率は一定です。

変動費の金額は売上金額に対して0.4をかければいいのですね。

では、それを踏まえてP/Lを作りましょう

売上高	X
変動費	0.4X
固定費	90,000
営業利益	0

$$X - 0.4X - 90,000 = 0$$

$$0.6X = 90,000$$

$$X = 150,000 \text{ 円です}$$

同じ要領で、晩御飯ごちそうパターンも考えてみましょう

これは動画で解説します

3. 高低点法

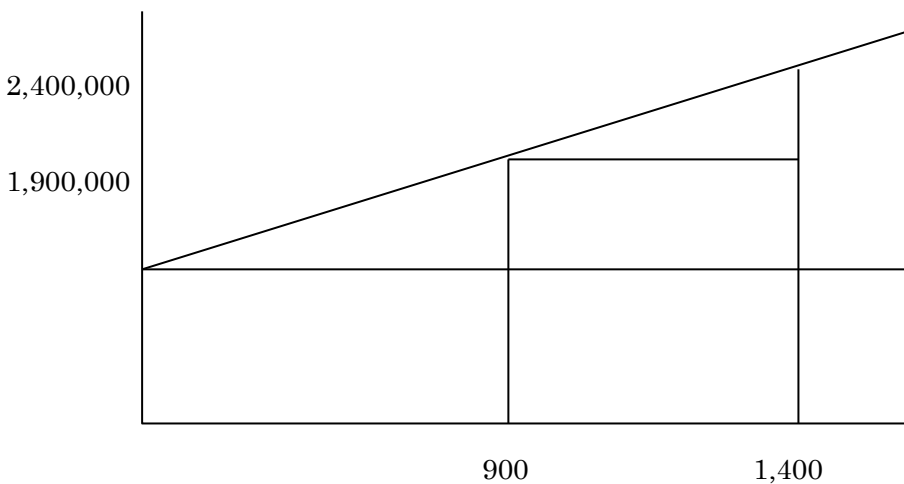
固定費と変動費を簡易的に計算する手法です

下の図で確認してみましょう

月	総原価	生産量	
1	2,000,000	1,000	正常
2	1,500,000	500	異常
3	1,900,000	900	正常
4	2,300,000	1,300	正常
5	2,700,000	1,700	異常
6	2,400,000	1,400	正常

当社の正常操業圏は 800 個から 1,500 個の間である

操業権が正常の中の高い点 (1,400) と低い点 (900) の 2 点で変動費を計算します



動画で詳しく解説しますが

生産量が 900 から 1,400 に 500 個増えたら原価が 500,000 円増えています
生産量に比例している訳ですから変動費が 500,000 円増えたのです。

従って変動費 = $500,000 \div 500 = 1,000$

固定費は逆算ですね

900 個でみましょう。

変動費 = $1,000 \times 900 = 900,000$

固定費 = $1,900,000$ (総原価) - $900,000 = 1,000,000$

原価は固定費と変動費に区分されるという性格を使って計算しているのです

一応 1,400 のケースで検算しておきましょう

変動費 = $1,000 \times 1,400 = 1,400,000$

固定費 = $2,400,000$ (総原価) - $1,400,000 = 1,000,000$

4. 安全余裕率

3. のケースで、売上単価を 3,000 円とします。

今月は消費好調で結構売れました。750 個です。売上額は 2,250,000 でした。

まずは損益分岐点売上高を求めましょう

変動費率は $1,000 \div 3,000 = 1/3$ ですね。分数の問題にも慣れておきましょう

$$X - 1/3X - 1,000,000 = 0$$

$$3/3X - 1/3X - 1,000,000 = 0$$

$$2/3X = 1,000,000$$

$$X = 1,500,000 \text{ 円ですね}$$

損益分岐点 1,500,000	安全余裕額 750,000
総売上高 2,250,000	

安全余裕率は 33.33333%

損益分岐点比率は 66.66666%ですね

日商 2 級では端数出るケースは少ないですが、出た場合は問題の指示に従って下さい。

5. では最後に応用問題を 1 問だけ

下記の損益計算書から営業利益率 20%をあげるために必要な売上高と、営業利益を計算しなさい

売上高 2,400,000

変動費 1,500,000

固定費 700,000

営業利益 200,000

$$\text{営業利益率} = \text{営業利益} \div \text{売上高} = 0.2$$

$$X - 0.625X - 700,000 = 0.2X$$

$$0.175X = 700,000$$

$$X = 4,000,000$$

売上高 4,000,000

営業利益 800,000

解説は動画をみて下さい

問題解説の後 (1 時間 3 分くらいから 15 分間) に
次回の直接原価計算の予習を簡単に行っております。

今日はここまでにして、次回の講座を聞く前に確認して頂いても OK です

CVP分析と直接原価計算の学習の仕方

1時間以上の講座は結構疲れると聞きます。そこで標準原価計算の学習方法を記しておきたいと思います。

①14CVP分析

63分までがCVP分析の内容です

64分から77分は[15:直接原価計算]の学習の準備の為の説明を予習的に説明しています。ですから、連続して聞いて頂いてもOKですし、日を改めて視聴頂いてもOKです。

②15 直接原価計算

日商1級で使用している動画を使っています。いきなり解説からはじまりますが間違いではありません

③16 直接原価計算

全経1級の解説の抜粋です。日商でも問われる可能性がありますので、ここにも配置しました。

この順番で視聴頂ければ結構です

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記15> 直接原価計算

全4枚



無料講座

月に一回

質問も無料ぜよ



最近の出題事例

- 137回 標準配賦率・配賦額・差異分析
- 127回 原価カード・消費量計算・差異計算
- 126回 仕掛品と損益計算書

全体理解していれば満点取りやすい

弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

1. 直接原価計算の損益計算書

CVP分析が利益計画に役立つことはわかったと思います。

その観点から直接原価計算で損益計算書を作成する方が経営者にとって有用であるという議論が1970年代のアメリカでおこってきました。

テキストを読んでもわかりにくい話が多かったと思います。

ここは問題を解きながら動画で解説させていただきます。動画は1級の動画を使うので、「1級ならここまで」という論点は「ふーん」という感じで聞いて頂ければ充分です。

ちなみに、動画の板書のV (Variable) は変動費、F (Fix) は固定費をあらわしています。

<問題>

さくら社では製品 T を生産販売している。次の資料をもとに、[1]全部原価計算による損益計算書を作成しなさい。また、[2]直接原価計算による損益計算書を作成し、末尾において固定費調整を行いなさい。(10分)

●資料●

1. 原価データ

期首製品原価	7,000 円	(うち、固定費 1,000 円)
当期製造費用	22,500 円	(うち、固定費 9,000 円)

2. 販売データ(仕掛品は存在しない)

期首製品	50 個
当期完成	<u>750 個</u>
合計	800 個
期末製品	<u>200 個</u>
販売量	<u><u>600 個</u></u>

3. その他

- ① 販売価格は1個あたり100円である。
- ② 変動販売費 2,200円
- ③ 固定販売費 3,200円
- ④ 原価配分法及び固定費調整の方法は先入先出法による。また、仕掛品は存在しない。

この後は、全経1級154回の類題をみておきましょう。応用論点です。解説聞くだけでも力は付くと思います。

<https://www.youtube.com/watch?v=j3l8kskYz4Y>

1. 次の資料により直接原価計算（直接費＝変動費のみで製造原価を計算する方法）方式によるP/Lを作成しなさい。

イカ焼きお土産セット

売価@1,600円

変動費（小麦粉・イカ）	540,000円	}	製造原価
変動加工費（電気代等）	738,000円		
固定加工費（リース料）	414,000円		



営業マンの歩合給(変動費) 1個売るごとに@154円		}	販売管理費
一般管理費（事務所家賃）	204,000円		
固定販売費（営業マン固定給）	126,000円		

今月は1,800個生産（月初月末の仕掛品・月初の製品在庫なし）して、1,500個販売

2. 向いに「ちよぼ焼」の店ができたため、来月は1,400個の販売に減少しそうである。現在の営業利益を確保するには、固定費総額をいくらにしなければならないか？営業マンの給料を下げるのか？リース会社に交渉するのか？悩みます。



たこ焼きとお好み焼きを足して2で割った感じ
ポンズ味がウマイです

I	売上高	()
II	変動売上原価	()
	製造マージン	()
III	変動販売費	()
	限界利益	()
IV	固定費	()
	営業利益	()

現在の営業利益を確保する為の固定費総額 ()

<回答>

I	売上高	(2,400,000)
II	変動売上原価	(<u>1,065,000</u>)
	製造マージン	(1,335,000)
III	変動販売費	(<u>231,000</u>)
	限界利益	(1,104,000)
IV	固定費	(<u>744,000</u>)
	営業利益	(360,000)

現在の営業利益を確保する為の固定費総額 (670,400)

売上高が変化する→変動費も変化する→限界(貢献)利益がわかる→固定費引くと営業利益

<応用問題> (1,500個販売時)

<損益分岐点を求めなさい(円未満切捨)>

<損益分岐点比率を求めなさい(小数点第2位を四捨五入)>

<安全余裕率を求めなさい(小数点第2位を四捨五入)>

<直接原価計算の営業利益を利用して全部原価計算の営業利益を計算しなさい

全直末首、加減して(うわさの全直末首です)

<上記回答>

損益分岐点=1,617,391、損益分岐点比率=67.4%、安全余裕率=32.6%

全部原価計算の営業利益=

直接原価計算の営業利益

+ 月末棚卸資産に含まれる固定製造間接費

- 月初棚卸資産に含まれる固定製造間接費

製品	
固定製造間接費 414,000 円	販売数 1,500 個
	在庫数 300 個

月末棚卸資産に含まれる固定製造間接=414,000×300÷1,800=69,000

∴ 全部原価計算の営業利益=360,000+69,000=429,000 円

日商簿記 2 級直前対策講座

過去問を解いた後に、
講師の追加質問に応える事で応用力を高める講座
＜工業＞標準原価計算



収録時、プロモーションとして一部のみの公開予定でしたが、現在は直前対策講座＜工業＞標準原価計算編は、最後まで無料で公開しています。こちらの講座を参考に、よろしければその他の直前対策講座もご購入ください。

過去問を解いた後に、講師の追加質問に応える事で応用力を高める講座

(標準原価計算)

まずは 135 回日商簿記の出題の意図を確認しましょう

(出題の意図)

標準原価計算は原価管理のために必要不可欠な計算技法です。この原価管理は差異分析を通じて行われます。本問では、差異分析の計算のうち、製造間接費の差異分析を出題しました。ここで、製造間接費は変動予算が適用されていますが、この変動予算がどのような原価で構成されているか、さらには、そこで計算する標準製造間接費と実際に発生した製造間接費との差異を分類して計算できるかを見るための問題となっています。

標準原価計算としては極めて基本的な問題であり、製造間接費の変動予算と実際発生額との関連が理解できれば解答可能な問題です。標準原価計算については、このような基本問題から完全に理解できるよう取り組んでほしいと思います。

(講評)

標準原価計算は、多数の企業において採用されていることもあり、重要な原価計算方法と考えることができます。このこともあり、過去に何度も出題されています。最初は時間がかかるかもしれませんが、基本的な問題から練習することで、十分理解できるものと思われます。しかしながら、今回は、そこまで学習が進んでいない、あるいは、苦手意識などがあるのか、高得点を得ている答案は多いとはいえませんでした。

標準原価計算は重要な計算方法なので、是非とも理解してほしいと思います。そのためには、この計算の仕組みについて、少し時間をかけて理解することが必要です。このように基本的な計算の仕組みを理解することで、計算問題を十分に解答できるようになります。

では第135回の5問を解いて下さい。

一応20分でどこまで解けるかを考えてみましょう。

その後も、一応最後まで解く努力をしましょう。例えば35分で解けたとしたら、どこを改善すればスピードアップできるかを考えて下さい。

では、解説に入ります

2. では、講師の質問タイムといきましょう

情報を追加します。

製品 1 個あたりの標準原価

直接材料費 @1,000×3.0kg =3,000 円

直接労務費 @600 ×2.0 時間=1,200 円

製造間接費 @780 ×2.0 時間=1,560 円 (これは元々のデータです)

合 計 5,760 円

実際発生額は以下の通りである

直接材料費 @1,100×11,600kg=12,760,000

直接労務費 @680×8,500 時間=5,780,000

製造間接費 6,890,000

合 計 25,430,000 円

①総差異を求めなさい

②下記の差異分析を行いなさい

直接材料費差異	
数量差異	
価格差異	
直接労務費差異	
時間差異	
賃率差異	

③パーシャルプランにて下記の勘定記入を行いなさい
 パーシャルプランにて下記の勘定記入を行いなさい。

材料 (単位:千円)	
諸口 ()	仕掛品 ()
/	/
()	()
()	()

仕掛品 (単位:千円)	
月初有高()	製品 ()
材料 ()	月末有高()
賃金 ()	原価差異()
製造間接費()	
()	()
()	()

賃金 (単位:千円)	
諸口 ()	仕掛品 ()
/	/
()	()
()	()

製品 (単位:千円)	
月初有高	売上原価
仕掛品 ()	月末有高()
()	()
()	()

製造間接費	
諸口 ()	仕掛品 ()
/	/
()	()
()	()

④シングルプランにて勘定記入を行いなさい

材料 (単位:千円)	
諸口 ()	仕掛品 ()
	原価差異()
()	()

仕掛品 (単位:千円)	
月初有高()	製品 ()
材料 ()	月末有高()
賃金 ()	
製造間接費()	
()	()

賃金 (単位:千円)	
諸口 ()	仕掛品 ()
	原価差異()
()	()

製品 (単位:千円)	
月初有高	売上原価
仕掛品 ()	月末有高()
()	()

製造間接費	
諸口 ()	仕掛品 ()
	原価差異()
()	()

3. 以下の情報を追加しましょう。損益計算書を作成して下さい。

当月の製品の情報を追加します

月初製品	300 個
当月完成品	? 個
合 計	? 個
月末製品	500 個

製品 X の販売単価は 10,000 円である

標準原価差異は月毎に損益計算書に反映させており、その全額を売上原価に賦課する

<u>月次損益計算書 (一部)</u>		(単位: 円)
I 売上高		()
II 売上原価		
月初製品棚卸高	()	
当月製品製造原価	()	
合 計	<u>()</u>	
月末製品棚卸高	()	
差 引	<u>()</u>	
標準原価差異	()	()
売上総利益	<u>()</u>	<u>()</u>

<解答>

①総差異を求めなさい

△2,414,000

②下記の差異分析を行いなさい

直接材料費差異	△1,060,000
数量差異	+100,000
価格差異	△1,160,000
直接労務費差異	△860,000
時間差異	△180,000
賃率差異	△680,000

③パーシャルプランにて下記の勘定記入を行いなさい

材料 (単位:千円)	
諸口 (12,760)	仕掛品 (12,760)
<hr/>	<hr/>
(12,760)	(12,760)

仕掛品 (単位:千円)	
月初有高 (3,504)	製品 (24,768)
材料 (12,760)	原価差異 (2,414)
賃金 (5,780)	月末有高 (1,752)
製造間接費 (6,890)	
<hr/>	<hr/>
(28,934)	(28,934)

賃金 (単位:千円)	
諸口 (5,780)	仕掛品 (5,780)
<hr/>	<hr/>
(5,780)	(5,780)

製品 (単位:千円)	
月初有高 (1,728)	売上原価 (23,616)
仕掛品 (24,768)	月末有高 (2,880)
<hr/>	<hr/>
(26,496)	(26,496)

製造間接費	
諸口 (6,890)	仕掛品 (6,890)
<hr/>	<hr/>
(6,890)	(6,890)

④シングルプランにて勘定記入を行いなさい

材料 (単位:千円)	
諸口 (12,760)	仕掛品 (11,700)
	原価差異 (1,060)
<u>(12,760)</u>	<u>(12,760)</u>

仕掛品 (単位:千円)	
月初有高 (3,504)	製品 (24,768)
材料 (11,700)	月末有高 (1,752)
賃金 (4,920)	
製造間接費 (6,396)	
<u>(26,520)</u>	<u>(26,520)</u>

賃金 (単位:千円)	
諸口 (5,780)	仕掛品 (4,920)
	原価差異 (860)
<u>(5,780)</u>	<u>(5,780)</u>

製品 (単位:千円)	
月初有高 (1,728)	売上原価 (23,616)
仕掛品 (24,768)	月末有高 (2,880)
<u>(26,496)</u>	<u>(26,496)</u>

製造間接費	
諸口 (6,890)	仕掛品 (6,396)
	原価差異 (494)
<u>(6,890)</u>	<u>(6,890)</u>

3. 以下の情報を追加しましょう。損益計算書を作成して下さい。

当月の製品の情報を追加します

月初製品	300 個
当月完成品	? 個
合 計	? 個
月末製品	500 個

製品 X の販売単価は 10,000 円である

標準原価差異は月毎に損益計算書に反映させており、その全額を売上原価に賦課する

<u>月次損益計算書 (一部)</u>		(単位: 円)
I 売上高		(41,000,000)
II 売上原価		
月初製品棚卸高	(1,728,000)	
当月製品製造原価	(24,768,000)	
合 計	<u>(26,496,000)</u>	
月末製品棚卸高	(2,880,000)	
差 引	<u>(23,616,000)</u>	
標準原価差異	(2,414,000)	(26,030,000)
売上総利益		<u><u>(14,970,000)</u></u>